「東京真田町の会」会報

日本ダボス

平成30年12月22日

懐かしき山河をたずねて

… 創刊号を飾った“ダボスの丘”はいま…

NO. 31

写真提供：一之瀬和夫理事（根子岳四阿山登山の帰途）

漆黒の天空を彩る（本会及他団体との協賛提供 2018/8/4）信綱寺黒門より四日市方面を望む（提供深町共榮理事）

雪冠根子岳四阿山（提供真田自治センター地域振興課 2018 年 1 月）　秋の長谷寺（提供深町共榮理事）

ふるさと寸描；おつとめご苦労さまでした。節孔のむこうの石臼や突き臼からはのどかなた日々のいとなみがみえます。朽ち落ちる木軸や水受、ようやく読める看板文字・・動車学…などもかっての暮らしを語っています。

松尾城跡らしき踊場

先方に烏帽子岳

もくじ

表紙　～懐かしき山河をたずねて～　編集部　一
ふるさとの彩り ～春夏秋冬～、ふるさと寸描　編集部　二
もくじ　編集部　三
会長就任あいさつ　会長（田中出身）　金子　誠　四
上田市の更なる発展を目指して　上田市長　土屋　陽一　五
ふるさとととともに　上田市議会議長　小林　隆利　六
真田地域の近況について　真田地域自治センター地域振興課　春原恵美子　六
今年は真田町発足60年でした　上田市議会議員　古市　順子　七
魅力増す故郷　上田市議会議員　佐藤　論征　八
故郷への温もりを感じて　上田市議会議員　齊藤加代美　九
「東京の会にお招きいただいて」　上田市議会事務局長　金井　浩一　一〇
会報「日本ダボス」第31号発行に寄せて　信州うえだ農業協同組合　代表理事組合長　坂下　隆行　一一
山里の秋まつりにきてみませんか　JA信州うえだ農業協同組合真田地区理事　町田　寿男　一一
「真田」を語り継ぐ　岩城まち歩き案内人の会会長　佐々木裕三　一二
御田の方について　岩城まち歩き案内人の会会長　佐々木裕三　一四
ふる里親睦旅行に参加して　（菅平出身）　岩崎みち子　一五
☆第二十一回　総会・懇親会のご報告　事務局長（横尾出身）　神田　幸雄　一六
各部の活動報告　各担当理事　二二
会長を退任して　（横沢出身）　山口　元彦　二四
菅平高原アリーナの開館について　菅平高原アリーナ所長　伊藤　岳彦　二五
『美しきかな　わが郷は』　長谷寺住職〈真田の郷まちづくり推進会議会長　宮下　俊哉　二六
にっこりちゃん農園だより　（横沢在住）　鈴木継彦・桂子　二八
私の長村小学校・真田中学校時代　（真田出身）　坂口　典和　二八
「妹」　（横尾出身）　鈴木　邦子　三二
総会の返信欄へ会員の皆様から寄せられた近況　編集部　三三
同級会などの開催情報　編集部　三六
平成二九年度決算報告書　事務局・編集部　三七
平成三〇年度事業計画・収支予算・役員名簿　事務局・編集部　三七
お知らせなど・編集後記　編集部　三八
ふるさと訪問：松本城、鹿鳴荘で・・　編集部　三九
広告（信州うえだ農業協同組合、同女性部真田支会、現代舞踊内海流）　編集部　四〇

会長就任あいさつ

金子　誠（田中）

この度、五月二十日第三十一回東京真田町の会総会において第六代目の会長に就任いたしました金子（田中出身）でございます。身に余る重責と思いますが、各副会長、理事そして会員の皆様方のご支援、ご協力の下に、全力でその任務を遂行してまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、前任者山口元彦前会長には八年間にわたり務めていただき、その間会の適正な運営と確固たる基盤を築いていただきました。ここにそのご苦労に対しまして深甚なる敬意と謝意を表わすものであります。

さて、当会では、会則に掲げる第一の目的は、「本会は、会員相互の親睦を図るとともに故郷（ふるさと）との交流を深め相互の発展に寄与することを目的とする。」を会運営の柱に据えまして、重点的に取り組んで行く所存であります。

第二の目的は、達成のための事業は会報及び会員名簿の発行、親睦会、講演会、懇親会等の開催、ふるさと訪問等必要な事業。

この事業内容の中で会員名簿発行が近年なく、最後の発行が平成十五年五月以降発行されていないので会員名簿は会員同士の皆様との絆の元となりますので近年の動静整理し発行したいと考えております。

昨年は創立三十周年記念を一つの節目という歴史を迎え、三十年間を振り返って見ますと皆様の高齢化が進むに伴い他界された方が多くまた体調不良等で退会者が一段と増加傾向が進行し、新会員の入会者減少は今日の現状であります。

このような現状下から見て総会・懇親会の出席者数及びふるさと訪問旅行・諸行事等の減少とともに設立当時の感動も薄れて来ていることも当然であります。

会員減少の中で会員皆様と接する機会を少しでも多くしようと、昨年から新たに高尾山散策を春と秋に実施しています。「東京真田町の会ホームページ」をご覧いただければ実施予定日等がお判りになりますのでご利用ください。実施計画は一之瀬理事が担当しております、ご家族、お孫さん同伴でのご参加もできますのでお待ちしております。

また新たに東京「はとバスツアー」観光旅行を一案として考えていますのでご期待ください。

このような現況の中において直面する今一番の重点課題は、会の存続と発展させる為には新会員を増やすことが不可欠です。即新会員を増やす特効薬は見つかりません。ここで三十周年を節目にして原点に戻り「東京真田町の会」が発足した経緯については会発行の会報「日本ダボス」創刊号に掲載されております。設立時から入会されている皆様方は了解していますが、途中入会の方で設立経緯をご存知ない方が加入希望者へのお誘いの説明に利用して頂きたく、「東京真田町の会」設立経緯内容につきまして簡略にまとめましたので参考資料として利用していただきたいと思い掲載しました。

設立経緯内容は次の通りです。

＝　＝

真田町は昭和三十三年十月一日三ケ村が合併し昭和六十三年度は満三十年という記念すべき年を迎え此の節目の年に町ではいくつもの記念行事を計画しこの内「東京真田町の会」の結成について最重点事業計画を進め我が真田町を「心のふるさと」としている東京、神奈川、埼玉、千葉の一都三県に住んでおられる皆様方を対象に町内全戸に紹介し会員五三四人の賛同を得た。（その後も加入望者ぽつぽつと増加

真田氏記念公園（国道 144 号線沿い・下原区, 8 月）

真田氏館跡（県指定文化財、8 月）

している）

昭和六十三年九月十日会員の皆様と来賓、真田町の代表者等総勢三百人が出席して上野池之端文化センターにおいて設立総会が盛大に行われました。

＝　＝

以上が設立経緯状況報告であります。

この三十周年記念という節目に、全会員の皆様には現状を踏まえていただき加入希望者の誘いにご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。さらに行政主導によるご支援とお力添えを頂ければ幸いです。

また各地域の皆様にご協力のお願いがございます。真田中学校の卒業生で東京含む周辺県でお住いの方で未加入の方が居られましたら紹介くださいますようお願い申し上げます。

涼をよぶ烏帽子岳（曲尾より望む、８月）

上田市の更なる発展を目指して

上田市長　土屋　陽一

東京真田町の会の皆様には、御健勝で御活躍のこととお喜び申し上げます。

今年、四月に上田市長に就任し、会長への就任にあたり、所信の一端を述べましたが、会運営の基本姿勢は、「会員とともにある東京真田町の会」であり、会員相互の心のつながり、結びつきを大切にし、それを深めていくことにあることは言うまでもありません。

そして、真田町、上田市の最大の理解者として、「真田町、上田市と東京真田町の会を結ぶ心の架け橋」としての役割を果たしつつ、「会員になってよかった」と感じて頂けるような魅力のある会を目指し、鋭意努力したいと思っておりますので、各理事・会員の皆様方のご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。

結びに各会員並びにご家族の益々の御健勝とご多幸を祈念いたしまして会長就任の挨拶とさせていただきます。

五月の総会にお招きいただいた折には、皆様に温かくお迎えいただき心より感謝申し上げます。会員の皆様の故郷への熱い思いに接することができ、感激いたしました。

今年は各地で地震や豪雨災害などが発生し、多くの方々が犠牲になられました。ご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。市としても、いつ起こるとも知れない大規模災害に備えるため、今後も市民の皆様や防災関係機関と連携して、災害に強い安全・安心なまちづくりに努めてまいりたいと思います。

さて、「ラグビーワールドカップ２０１９日本大会」の開催が来年に迫ってまいりました。残念ながら菅平高原は公認キャンプ地には選ばれませんでしたが、昨年十月にイタリア代表チームが事前キャンプを行うことが決定し、今年の五月二十六日から六月三日まで、菅平高原で初のトレーニングキャンプを実施いたしました。キャンプ期間中は公開練習日を設けるとともに、市内児童生徒との交流なども行われ、多くの皆様にラグビー競技の素晴らしさとイタリア共和国への親しみを感じていただけたものと思っております。

また、地元の皆様の長年の願いであり、訪れるアスリートからの要望も多かった、屋内競技場やトレーニング施設を備えた「菅平高原アリーナ」が完成し、九月一日から供用を開始いたしております。これを機に地域の振興が更に図られ、スポーツ合宿地としての菅平高原の魅力が一層高まるよう、当該施設の運営に取り組んでまいります。

現在、国や地方を取り巻く状況は、大きな転換期を迎えています。少子高齢化・人口減少社会の到来は、地域の活力低下や担い手不足などをもたらし、地域社会に大きな影響を与えるものと思われます。このような社会情勢の中で、上田市が持続的に発展するためには、改革すべきは改革し、また、これまで市政の着実な歩みを支えてきた取り組みを生かし、継続すべきものは更に磨き上げ充実させるといった柔軟な再構築の視点に立った、まちづくりへの取り組みが重要と考えております。

皆様には、ふるさと上田市を温かく見守っていただき、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、東京真田町の会のますますの御発展と金子会長はじめ会員の皆様の御多幸を心から祈念し、会報「日本ダボス」に寄せるあいさつと致します。

ふるさとともに

上田市議会議長　小林　隆利

本年五月に、東京真田町の会にお招きいただきました折には、これまでと変わらぬご厚情を頂戴し、心より感謝申し上げます。皆様が郷土のことを殊のほか気にかけ、活動を続けられておりますことを改めて実感し、参加者一同大きな喜びを感じた次第です。

本年は、選挙の年でありました。私たち議員三十人は、今春の選挙において市民の皆様方の負託を新たに受け、当選の栄を与えていただきました。市民の代表としてこれから四年間、その使命と責任を果たし、市民をはじめ皆様の負託と期待に応えられるよう全力で取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

合併後の上田市として第四期となる上田市議会がスタートして九か月余りが過ぎようとしております。今年も「議会報告会」を市内六会場で開催いたしましたが、三会場は新しい試みである「出前報告会」として実施いたしました。「出前報告会」とは文字どおり、自治会など申し込みいただいたグループの皆様の所へ直接お伺いして報告を行うものです。議会の活動内容を市民の皆様に提供するとともに、市民意見を把握する貴重な場として定着してきており、今年も大勢の市民の方にご参加いただき、有意義な意見交換を行うことができました。

今期におきましても、制定から五年目を迎える議会基本条例のもと、引き続き開かれた議会に向けた取り組みの推進と議会機能の強化、議会改革に邁進してまいります。

さて、今年の夏は全国的に大変な猛暑となり、気象庁から災害という認識が示されるほどでしたが、上田市においても七月には最高気温が三十五度を超える日が十一日間続くなど、これまで経験したことのないものでした。また、暑さが続いただけでなく、集中豪雨や台風等による被害が全国各地で発生いたしました。上田市では幸いにも大きな災害はありませんでしたが、災害に対する備えや防災力強化の重要性を改めて認識しているところです。

皆様のふるさとであります真田地域におきましては、去る九月一日に「菅平高原アリーナ」がオープンいたしました。ラグビー、陸上競技、スキーなどの国内合宿地として評価の高い菅平高原の持つポテンシャルを更に高めるものであります。合宿に訪れる選手だけでなく、地域住民の皆様の生活環境の向上や更なる地域振興、産業振興に寄与する施設として、その役割を十分に果たしてくれることを期待しております。

また、十月一日には、三十年前の旧真田町において真田町発足三十周年を記念して埋設されたタイムカプセルの開扉セレモニーに出席させていただきました。三十年の時を経て届けられた私どもへのメッセージを拝聴し、胸を熱くし、感動するとともに、合併してよかったと思っていただける上田市となるよう力を尽くす決意を新たにいたしました。

本年は、旧真田町の発足から六十周年となる年であり、東京真田町の会の皆様におかれましては、ふるさとに対する思いもひとしおかと存じます。皆様方のご期待にお応えできますよう精一杯精進してまいりますので、今後とも末永く上田市を見守ってくださるようお願いいたします。

結びに、東京真田町の会のますますのご発展と会員の皆様のご多幸を心からご祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

真田地域の近況について

真田地域自治センター
地域振興課　春原恵美子

本年４月から東京真田町の会の事務を担当させていただいております春原恵美子と申します。微力ではありますが、少しでも皆様方のお役に立てるように努めてまい

りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

５月には初めて東京真田町の会の総会に参加させていただきました。会員の皆様のふるさと真田に対する変わらぬ想いに触れ、楽しい時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

私は真田地域自治センターでの勤務は三年目になりますが、真田地域の自然の美しさや、地域の皆様の真田を愛する気持ちや、人に対する温かさを感じながら仕事をさせていただいております。

今年は旧真田町が発足してから、六十周年にあたる年です。東京真田町の会は旧真田町発足三十周年の年である、昭和六十三年に発足されておりますが、この年には三十周年記念事業として様々な事業が行われ、その一つとしてタイムカプセルが埋設されました。この中には、当時の町の状況や住民の生活ぶりを伝える資料と、未来の自分や家族などにあてたメッセージ等、当時の皆さんの「２１世紀の郷土への想い」を込めた品々が納められました。

このタイムカプセルの開扉セレモニーが今年、十月一日に行われました。三十年の時を超え、届いたメッセージに地域の皆様には感慨深いものがあったことと思います。

先人の皆様の精神を引き継ぎ、これまで真田地域を築き上げてきた、地域の皆様の御尽力に感謝申し上げます。

さて、市ではこれまで、ラグビーワールドカップ２０１９の事前合宿地の誘致に、地域の皆様と共に取り組んでまいりましたが、昨年十月にイタリアラグビー連盟と合意に至り、２０１８年から２０１９年の２か年にわたり、イタリア代表チームのトレーニングキャンプが菅平高原で実施されることになりました。今年の五月二十六日から六月三日に行われたキャンプ期間中には公開練習日を設けるとともに、市内小中学校の児童生徒との各種交流なども行われております。

また、地域の皆様や菅平高原を訪れるアスリートの皆様の長年の願いであった、屋内競技場やトレーニングルームを備えた菅平地区振興施設「菅平高原アリーナ」が完成し、九月一日から利用を開始しております。

会員の皆様には、真田地域のますますの発展のために、変わらぬご指導と、お力添えを賜りますようにお願い申し上げます。

終わりに、会の益々のご繁栄と会員の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。

☆　☆

今年は真田町
発足60年でした

上田市議会議員　古市　順子

今年も5月の総会の折は大変お世話になりました。3月に市長・市会議員選挙があり、私は4期目13年目となりました。総会には新市長をはじめ新メンバーでの参加でしたが、変わらぬ温かな雰囲気で、楽しい時間を過ごさせていただきました。

今年は自然災害が大変多い年ですが、真田の郷は幸いなことに今のところ家屋、道路などに大きな被害は出ていません。しかし9月4日の台風21号の強風は、果樹には大きな影響がありました。5日朝近くのリンゴの圃場を見回り、落果は思いのほか少ないとのことでしたが、強風で実が大部傷み、リンゴはこれから主力のフジの収穫となりますが、贈答用は品不足が予想されます。昨年は雹害があり、自然に左右される農業は厳しいですね。農家の皆さんのご苦労に感謝しながら、味わいたいものだと思っています。

さて、今年は真田町発足30周年記念事業として、昭和63年10月1日に真田運動公園に埋設されたタイムカプセルの開扉セレモニーが10月1日に行われました。埋設した際の記録に「タイムカプセルは２０１８年10月1日（真田町発足60周年記念日）に開封してください。」とあったとのことです。この頃はまだ合併など予想できず、自由時間都市構想により「リゾート真田」の提言があった時でした。世帯数は２９２８、人口は１１１０２３人。今年9月の世帯数は４１１３、人口は１０３８２人です。収納品は小中学生の作文、手紙、写真などが多く、自治会ごとに包装されていました。さっそく役員の方が配って下さり、我が家にも小3だった次男の作文と写真が届きました。あちこちで友達同士で連絡し合い、感動の輪が広がったようです。私も過ぎ去った30年をふりかえり、30年後は自分は生きていないかもしれませんが、ますます住みやすい真田町であってほしいと思いました。

昨年は菅平地区振興施設の建設が始まったことを書きましたが、

魅力増す故郷

上田市議会議員　佐藤　論征

東京真田町の会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年は、東京真田町の会総会と真田地域体育祭が重なり参加がかないませんでしたが、二年ぶりに参加させていただき、皆様の変わらぬ故郷への想いにふれさせていただきました。故郷への変わらぬ想いとご歓迎いただきましたことに深く感謝申し上げます。

さて、故郷真田地域では、平成三十年九月一日に地域振興施設として、菅平高原リゾートセンター前に「菅平高原アリーナ」がオープンいたしました。２０１９年ラグビーワールドカップをはじめとし、２０２０年オリンピック・パラリンピックなど国際的な大会の合宿などに対応するものであり、菅平高原を「世界の菅平」へ飛躍させる取り組みの一環として整備されました。屋内競技場（バスケットボール一面）、トレーニングルーム、ミーティングルーム、クールダウンルームを完備しており、トップアスリートにも対応した施設となっております。今後、地域の振興、魅力を更に向上させる施設となるものと確信しております。

角間渓谷の岩屋館、11 月

また、現在真田地域では、渋沢のつちや水源を水道水として利用するための工事が急ピッチで進められております。平成三十年四月には、大日向自治会への給水が始まり、順調にいきますと、２０１９年度末には、長地域、本原地域にも給水が開始される予定となっております。これまで以上に美味しく、安定した水が供給されるとともに、人口減少社会のなかで経費的にも大幅な削減が図られるものであり、将来の上田市にとって大きな貢献を果たすものであります。

様々な環境整備によりまして魅力を増す真田の郷でありますが、故郷を守る私たちといたしましては、更に魅力的な地域とし、皆様がいつまでも誇れる故郷するために更に尽力してまいる所存でございます。今後とも皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、東京真田町の会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

☆　☆

《広告欄》

㈲上原重機
クレーン作業は懇切丁寧で定評のある上原重機へご相談下さい
Rough terrain crane/TADANO
25t/10t/7t/5t
吊上げ：鉄骨・鉄筋・住宅・
庭園（庭石・植木）・その他一般
〒389-0505 長野県東御市和 1086-1
TEL 0268-36-2369 FAX 0268-35-0502
上原重二・恵子（大日向出身旧姓一之瀬）

土木仮設用材・建築用製材
各種建材取扱
大久保木材合資会社
代表　大久保睦男
（真田中学校第5期卒、大日向出身）
〒386-0152 長野県上田市大屋351-1
TEL 0268-35-0128（代）、Fax 0268-35-0226

故郷への温もりを感じて

上田市議会議員　齊藤加代美

東京真田町の会の皆様におかれましては、お元気でご活躍のこととお喜び申しあげます。この度は、東京真田町の会の総会にお招きをいただき、心から感謝とお礼を申しあげるとともに、郷土を愛する皆様の温かいぬくもりをたっぷり感じた素敵な会に参加できたこと、とてもうれしく誇りに思っております。

私は、この４月から市会議員の立場をいただきました、皆様と同じ郷土、真田町本原上原出身の齊藤加代美(旧姓倉島)と申します。私の亡父は、昭和２年生まれの一義ですが、ご存知の方がいらっしゃったらうれしい限りです。父は根っからのお祭り好きで、お屋敷の三ツ頭獅子を旧上原区で仲間と復活させ、真田町商工祭の実行部隊を務め、延命地蔵堂のりんごまつりなど、地域のお祭りとあればどこでも、私を連れて行ってくれました。今になって思うと、きっと父親の「お祭り好き」血の引き、今このお立場につながったのだと思っております。そんな私は、郷土愛は人一倍強く、人の集まる笑いある賑やかなところが大好き！そして、更にもっとこの地域魅力を知ってもらいたい、自慢のおひさまのもと、住んでいる人がもっと笑顔あふれ生活が営まれるよう、そう願って活動を始めています。

そして、真田町の会の総会で皆様にお会いしたいと強く願い、参加に手を挙げました。東京でご活躍される皆様は、心から真田町故郷を深く愛してくださっていることを実感。じゃんけん大会では、真剣な勝ち抜き戦を行い、最後には、皆で輪になって「真田の郷踊り」をし、強い連帯感を感じました。併せて、東京からいつもこんなに力強い応援をしてくださっていることも実感しました。

唐沢の滝、凍てつく２月

現在の真田町は、まだまだ大河ドラマ「真田丸」の余波や、特に山家神社奥宮”四阿山登拝”などが人気で、沢山の方が訪れてくれています。そして若いママたちが、真田の魅力を地域に届けようと、マルシェ「さとのわ」のイベントなどをおしゃれに開催し、真田ゆめぐるproject.を展開しています。菅平では、来年の5月下旬、ラクビ―ワールドカップ、イタリアチームのトレーニングキャンプが予定されており、ラクビ―の合宿の聖地「菅平」が、確立されようとしています。どうか今後の真田町にご期待ください。

最後になりましたが、この私の本質の自己形成してくれたのは、なんといっても真田の郷の豊かな

春の横道より天狗岩を望む、４月

《広告欄》

東京真田町の会

顧問　小林孝雄

（曲尾出身）

〒234-0051 神奈川県横浜市港南区日野 4-45-5
☎ 045-349-2084

信州◇戸倉上山田温泉

ホテル 圓山荘　玉の湯

〒389-0821
長野県千曲市上山田温泉 2-9-6
TEL 026-275-1119
FAX 026-275-1109

〒389-0821
長野県千曲市上山田温泉 1-74-11
TEL 026-261-0324
FAX 026-261-0325

信州・源泉掛け流し温泉宿

自然、おひさま、温かい真田町の皆さんのお陰だと感謝しています。

「東京の会にお招きいただいて」

上田市議会事務局長
金井　浩一

現職に就いてから、真田町の会、上田会、丸子会の総会や集いにお招きいただき、首都圏に在住の皆様と懇親させていただく機会がふえましたが、帰りの新幹線で余韻に浸る中で、ふと、二〇歳前後の四年間を過ごした世田谷区松原の木造二階建てアパートの鍵を返却し、上野発の特急あさまに乗った後に、遠くに見える高層ビルを眺め、これでもう、東京に住むことはないなと感じたことを思い出します。卒業後、上田市で暮らすことを選択した理由は何か。唯一決定的な理由があったわけではなく、そこそこ「まち」で、そこそこ「田舎」という地方都市の姿の方が、性に合っていたということなのかもしれません。同級生を見ても、上田市にいる人の方が少数です。彼ら彼女たち、そして会員の皆様に、今に至る、どのような経緯や選択があったのか、今となって少し興味深いところです。

今年、ひとりの人物を歳の違う二人の俳優が演ずるダブルキャストの映画を二本見ました。アムラー世代の高校時代とアラフォーの今を描く「ＳＵＮＮＹ」と、父親候補が三人いる娘の今とその母親の若き頃のいきさつを描く、「マンマ・ミーア！ヒア・ウィ・ゴー」ですが、どちらも「人生いろいろあったし、今もいろいろあるけど、何とかなる、悪くない」ということを物語っているのだと思います。「東京の会」にお招きいただき、それぞれの会員の皆様の精力的な活動を拝見し、さらにこれまでの、いろいろなお話をお聞きしていると、そのことを実感いたします。

そういったことから、それぞれ異なるストーリーをお持ちの皆様が、同郷をキーワードに集い、交流していただいていることは、今の上田市にとりましても喜ばしく、大変素晴らしいことであると思います。東京真田町の会が今後も発展され、このような有意義な交流の輪がさら拡大していきますように、心からご祈念申し上げます。

☆　☆

信綱寺黒門、8 月

桜紅葉（戸沢神社、11 月）

《広告欄》

土木工事　解体工事　測量　造園　除雪
株式会社山崎商會
代表取締役社長　山崎　勇治
〒386-0002 長野県上田市住吉 1039-2
TEL 0268-24-6221　FAX 0268-27-7558
e-mail : yamazaki_shyoukai@yahoo.co.jp

山崎公認会計士事務所
Yamazaki CPA Office
公認会計士 / 税理士 山崎　友揮
（長野県上田市住吉長島 出身）
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-12-7 MS ビル 6F
tel. 03-6272-6539　fax. 03-6272-6765
e-mail. yamazaki@yy-cpa.com

会報「日本ダボス」第31号発行に寄せて

信州うえだ農業協同組合
代表理事組合長　坂下　隆行

東京真田町の会の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より、JA信州うえだの事業につきまして、ご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

「日本ダボス」の31回目の発行に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は5月の降雹により、地元の農産物に甚大な被害が発生いたしました。真田地区においても、少なからずの被害が発生し、農家の皆様には受難の年となってしまいました。

しかしながら、生産者の皆様の不撓不屈の精神と、熱い農業愛に支えられ、災害を糧として、今年の農産物は全般的に質、量ともに申し分のない出来栄えとなっております。

正に「真田魂のここにあり！」を痛感した次第であります。

今年も県内外から「菅平カントリーフェスティバル」や「レタス祭り」に多くの観光客の皆様を菅平の地にお迎えし、旬の味覚をご提供いたしました。特にレタス祭りにおいては、開店前から「桃」を求める観光客で長蛇の列ができるなど、大盛況となりました。旬なレタスはもとより、「毎年おいしい桃を買うためにこのレタス祭りに来ています」。との声も多くいただき、感激いたしました。

加えて5月には、ラグビーの強豪イタリア代表チームが、菅平高原でキャンプを実施し、菅平が上田の元気発信の地となりました。これも、官民一体となった誘致活動が実を結んだ結果として、大いに評価されております。

また、菅平の農事振興組合とJA信州うえだが協働して、「ラグビー合宿の聖地上田市菅平高原」と書かれたレタス出荷用の段ボールを作り、全国に発送することで、産地としてのPRに大きく貢献しております。

今後も東京真田町の会とJA信州うえだはともに手を携え、命を育む農業と健全な心と体をつくるスポーツとを融合させながら、全国に菅平を発信していきましょう。

結びに、東京真田町の会のますますのご発展と、会員各位のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

山里の秋まつりにきてみませんか

JA信州うえだ農業協同組合
真田地区理事　町田　寿男

東京真田町の会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

五月の総会の際には、会員皆様方と懐かしいお話等させて頂き楽しいひと時を過ごさせて頂きました。まことに有難うございました。

さて今年こそ災害の少ない安定した農業を期待し春先から概ね順調に

《広告欄》

菅平まんじゅう
製造、販売

かんせいえん
菅清園

地酒・地ワイン・地ビールも揃えております

菅平高原 菅清園 TEL：0268-74-2525　Fax：0268-74-2655

推移してきた所でしたが、菅平高原では夏の猛暑で高温干ばつが続き初めてレタスへの散水を行ったと聞きました。また各地に大きな被害をもたらした台風二十一号ですが、真田地域でも強風による果樹被害が発生し、自然災害と常に向き合わなくてはならない農業をいかに安定した生産基盤に繋げるか、その強化策をもとめられているところです。そして、猛暑の夏を乗り切った稲穂も黄金色に染まった頃、収穫に感謝し祝う面白い秋祭りが始まります。

その秋祭りは、農業に欠かせない恵みの水を源とする四阿山に奥社を持つ「水分りの神(みくまりのかみ)」を祭る山家神社の境内で行われます。夕闇迫る頃、祭の関係者が集落下の集合場所にやってきます。そして、灯篭にロウソクの火が入ると祭の始まりです。灯篭に囲まれた神楽は笛や太鼓のおはやしに合わせ集落上の神社へと向かいます。おはやしの音が聞こえて来ると、家々から沿道に飛出し風情ある神楽一行を迎え見送ります。ようやく神社に着くと宮司による神事が始まり、外で待つ人々は振る舞い酒でほろ酔い気分になったころ神事は終わり、いよいよ秋祭りでしか見られない獅子舞と面神楽(めんかぐら)の奉納が始まります。

千古の滝、10 月

薄暗い外灯に照らされた獅子は、笛や太鼓の音色に合わせゆっくりと静かに舞い始めます。程なくして音色が変わり詩(うた)に合わせた舞にかわります。その後もゆったりと勇壮な舞へと進み、そして獅子舞も終盤いよいよ面神楽の登場です(注1)。

神楽から聞こえて来る笛や太鼓が小気味良よい音色に変わると、勇ましく出てきた鬼は獅子を狙い襲いますが獅子はかわします。すると鬼は刀を抜いて研ぎ始め、その刀を振りかざし獅子と対決します。やっと獅子を仕留めたと思った鬼は嫁のおかめを呼んで来ます。如何にも微笑ましいふくよかなおかめの登場です。鬼とおかめは獅子へ石を投げ身動きしない事を確かめるとあまりの嬉しさに2人抱き合い体全体で喜びを表します。その仕草に会場はどよめきます。それでも心配になった鬼は止めを刺そうと獅子に馬乗りになったその時獅子の逆襲に合って倒れてしまいます。さあ大変、嫁のおかめは急いで藪医者を呼びに行きます。よれよれの袴と白衣、はげ頭にリボンをつけて歩く足元は高下駄と穴の開いたボロボロ靴そして大きなカバン、その姿と動きを見た観客は大爆笑です。その藪医者は倒れている鬼を見て手を合わせ帰ろうとします。おかめは必至に藪医者を引き留めます、戻った藪医者とおかめは一生懸命治療を始めます。最初に体温計、点滴そして注射を打ちますが生き返りません、観客は二人の仕草に笑いこけてしまいます。すると最後の手段です藪医者はカバンの中から風船の付いた手動ポンプを取り出すとおかめに鬼の股間に風船を当てるよう言いつけ、藪医者は笛や太鼓の調子に合わせポンプを押します。どんどん大きくなる風船、観客もひやひや、すると突然「パーン」と境内に響く風船の音と同時に鬼が生き返りめでたく面神楽の演舞は終わります。そして笛や太鼓の音色が変わり最後の獅子を舞い秋祭りは終ります。このように毎年受け継がれております秋祭り、会員の皆様方ぜひ見に来ては如何でしょうか。お待ちしております。

面神楽の奉納

結びに東京真田町の会の更なるご発展と会員各位のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

(注1)今年の秋祭りは9月15日19時頃から、そして神社への奉納は20時から始まりました。

上田市立真田中学校校章(HPより、１９５６年３月制定)

「真田」を語り継ぐ

岩城まち歩き案内人の会
会長　佐々木裕三
(秋田県由利本荘市)

真田丸の放映が終了してから三年が過ぎた。ここ由利本荘市亀田ももとの静かな町に変りつつある。それでも、まち歩きの案内や真田に関する問合せが日に数回ある。現に、九月中の案内は七回にもなった。問合せや講演は四回あった。

すべて「御田の方」についてであった。まち歩きには「真田」を外して案内はできない。

亀田生まれで亀田育ちの、物心もつかない私は、明治九年生れの祖父から、「御田の方」についてと、亀田藩三代目藩主重隆（通称月峰公）が亀田の基礎を築いたのだと、遠々と話を聞かされた記憶がある。具体的なものは脳裏に残っていないが、二度三度の祖父の話し降りはみょうに自慢気であり、他の地域には無い得意気に満ちていた様に思われてならない。

「御田の方」は、慶長九年九度山に生まれる。父は真田信繁、母は豊臣秀次の娘である隆清院（実名は不明）。隆清院の母は菊亭晴季の娘である「一の台」で、秀次事件により京三条河原で打首にあった人物である。隆清院は生き残りの一人である。

信繁と隆清院が出合ったのは、父秀次と母一の台の菩提を弔うために入った九度山の慈尊院に居た時と言われる。隆清院は何としてでも父秀次が死んだ高野山青厳寺を見たいと信繁に言上する。女人禁制の高野山へ、信繁は男装させて自から青厳寺を案内する。帰路、十八歳の隆清院は信繁と一夜を共にする。翌年「なほ」が生れる。幽閉中の身である信繁は、正室（竹林院）と側室を同居させることになる。子供たちは仲が良く、長男大助が面倒を見たと伝わる。なほは、横笛の吹き方も大助から教わった。又、薙刀などの剣術は真田家の家臣より稽古をつけてもらったと伝えられる。

大阪冬の陣を前に、信繁は秀頼から黄金二百枚、銀三十貫目をもらい戦の準備をした。

信繁の家族は、竹林院（正室）、隆清院（側室）、大助、大八、梅、なほ（十一才）、菖蒲、かね、真田の家臣とともに大阪城に設けられた真田屋敷へ向かう。ほかに側室二名いたようだが同道していない。大阪冬の陣では、なほと隆清院は炊出しの手伝いをしたと言われるが事実は不明である。

夏の陣が予見される頃、信繁はなほと隆清院に「大坂城を離れ、秀次の母瑞龍院のもとに身を寄せるように」と話しがされた。慶長二十年一月、京へむかった。三才の大八も一緒であったという説もあるが定かではない。

大坂夏の陣が終ると、徳川方による残党刈りが激しさを増す。残党刈りにあった隆清院は身ごもっていたため無罪放免されるが、なほは信繁の兄信之に預けられる。信之はなほに対し「処置は幕府が決する」と伝えたと言われている。なほは、人質として江戸城大奥へ出仕する。元和四年将軍秀忠より大奥への出仕を許され、京に居る母のもとへ帰ることになる。米屋の土蔵暮しをしていたなほは、給仕女の仕事が世話される。場所は、京・伏見にある佐竹家の日野屋敷である。給仕女の仕事は、秋田藩主佐竹義宣の朝起きてから寝入るまですべての世話をすることである。佐竹義宣は、米屋の娘と聞いていたが、なほの立ち居振る舞い、礼儀作法など武家の人間でなければ解らないことが身についているため、身元を懇々とただしたと言う。当初は頑にしていたが、父と母の名を明かした。身元を知った義宣は勇猛果敢な真田の血脈を佐竹の家にほしいと考えたようである。元和五年九月、なほは秋田へ行くことにするが、京都所司代の一筆が必要となり、翌年、秋田藩奉行梅津政景に同道し、大津より琵琶湖を渡り、敦賀から北前船で秋田土崎港へ上陸している。なほは義宣の弟、佐武宜家の側室となり秋田で暮すことになる。その後長男庄次郎が生れる。又、越後国妙勝寺より日砌上人(注1)を招請し、父母の菩提を弔うため久遠山妙慶寺を開山している。

図１　妙慶寺

佐竹家に家督相続問題が発生し、亀田藩主岩城吉隆（義宣の甥）が指名され、亀田藩主なほの長男庄次郎（五才）があてがわれる。父である佐竹宜家は岩城家の家事一切をとりしきり、なほは庄次郎の訓育につとめる。このことが江戸では良妻賢母として伝わる。なほは、庄次郎に対し自から学問や礼儀作法、武芸全般を教えたのである。このことが亀田の町を作ったと言われる由来である。

真田を語り継ぐために、真田の郷は何度でも訪問すべしと思う。真田本城跡、松尾城、戸石山城等これまで登ってみて真田の心根がわ

かったかどうか不安になる。

亀田には、「御田の方（正しくは、真田の方）」の遺品が妙慶寺に残されています。又、徳川家への遠慮から真をはずして呼んでいます。

亀田藩主岩城家に入嫁した「真田なほ」の京人の振舞いに城の人々は人生の手本ように見えたであろうし、都の粋を感じたのかもしれない。

図３ 御田の方遺品の一つ

図２　顕性院「御田の方」の碑

「田」と言う呼称について、士族出身の父に、真田の系図に「田（でん）」と言う記載が無いし、亀田郷土史の「名を田と称す」とあるのは間違いだろうと問詰めたことがあった。父からは一言。「馬鹿野郎、藩主の奥方を実名で呼べる訳無いだろう」とひどくおこられた事がある。実名で呼ぶことは無礼な行為とみなされる。そのため藩主の正室（奥方）はすべて実家の名で呼ばれる。本来は「真田の奥方」と呼ぶべきだが、二万石の亀田藩では、「真田」を使用することは御法度とされた。「真田丸」が終って、真田を語る家庭は少なくなったかもしれない。真田を語り継ぐことは、「御田の方」によって培われた地域の文化がつくった歴史を賛えることであり、城下町再生の夢と誉れがある。

（注１）日砌（にっせい）。編集部。
（編集部から筆者への原稿依頼２０１８年９月５日、入稿10月10日）

御田の方について

岩城まち歩き案内人の会
会長　佐々木裕三
（秋田県由利本荘市）

真田信繁(幸村)は、関ヶ原の戦いの後、父・真田昌幸と共に紀州(和歌山県)九度山に配流されていた。

慶長９年（１６０４年）真田信繁と隆清院の間に「直」という女の子が誕生した。隆清院は豊臣秀次の次女であり、信繁（幸村）とは親子ほどの年齢に違いがあった。秀次の一族は、豊臣秀吉によって京三条河原で処刑され、秀次自身も高野山にて切腹している。そんな中で二人の息女が生きのびた。姉は、公家・梅小路家に嫁ぎし、妹は九度山に配流された信繁に身をよせ側室となった。

《大坂の陣とその後》

真田昌幸は慶長14年(１６０９年)に没し、その後信繁へ豊臣秀頼からの使者(明石全登)が致着する。内容は、大阪城に入って大坂の陣に対応してもらいたいとの事。準備の金は大阪方でもつとの事。黄金200枚、銀30貫目をもとに慶長19年(１６１４年)10月に大阪城へ入城する事となる。そして大坂冬の陣では「真田丸」をつくり、徳川方を散々な目にあわせている。

大坂夏の陣では、後藤又兵衛や明石全登などと大阪城をたち道明寺方向へ撃って出たが、徳川家康にまで刃はおよばなかった。その後、四天王寺近くの安居神社の境内で休止を入れていた時、信繁は徳川方につかまり斬首される。

信繁（幸村）は夏の陣が予見された頃、密かに京都瑞竜寺（秀次の母・瑞竜院日秀）のもとへ母子を送っていた。隆清院はこの時身ごもっていたと言われる。元和元年（１６１５年）三好左次郎（三好左馬之介幸信）が産声をあげた。

その後、徳川方の牢人狩りが行われ、「直」は12歳（元和元年）で捕らわれの身となり、人質として徳川秀忠の大奥に出仕することとなった。三年の年月を過ごし、元和４年（１６１８年）「直」が15歳の時に京都の母の元へ帰る事を許された。

《久保田藩佐竹家へ下向》

元和５年（１６１９年）佐竹義宣は、徳川秀忠に上洛の際、供奉を命じられ京都に随行した。この時、日野屋敷を宿とするが、給仕女として「直」が義宣の身の回りを世話した。この時佐竹宣家も同行している。

元和６年（１６２０年）５月８日、佐竹家家老梅津政景が徳川和子入内の祝使を命じられ京都に出張した。その時、京都商人大島宗喜に頼んでおいた京都所司代からの出判をもとに、大津から舟に乗って女共々帰路についた。その女とは「直」（当時17歳）の事である。

佐竹義宣は、「直」を弟宣家の側室にと思い頼んでおいたのである。「直」には、武家の女と思われるほどの礼儀作法・立ち居振る舞い等が身に付いていた。その所作に驚

いた義宣は、何度も出自を聞いたが「まちむすめ」とだけ答えていたという。

朝早くから武芸の掛け声がしているのに気付いた義宣が庭の方に目をやると、給仕女として仕えている身分にありながらも甲冑に身をまとい、他の給仕女達へなぎなたの稽古をつけている「直」の姿があった。それを見た義宣は、ただの「まちむすめ」ではない、武家の女に間違いないと思い、再度出自を問うが答えは無かったといわれる。その気高き身振りに心を留めた義宣は、懇々と身元をただした。真田信繁（幸村）の娘であることを知った義宣は深く同情し、弟宣家（43歳）の側室に迎えることにした。

御台の侍女一人は、こうして久保田藩佐竹家に入ることになった。

《亀田藩へ》

その後、久保田（秋田）と檜山に住まい、寛永３年（１６２６年）嫡男庄次郎（後の重隆）の出生を見る。

佐竹家に家督承継問題が起こる。佐竹義宣公に嫡子がなかったため、秀忠（将軍）の指名によって岩城吉隆（義宣の弟貞隆の子）を藩主にすることになる。亀田藩の藩主は、寛永５年（１６２８年）庄次郎重隆に拝命された。そのため佐竹宣家は重隆公の番代として、岩城家の家事一切を取り仕切ることになる。

寛永７年（１６３０年）庄次郎重隆は亀田藩主として江戸屋敷に入る。番代の宣家が国元に帰って着手したことは、岩城家の菩提寺である龍門寺を亀田に建立することであった。

龍門寺建立に伴い、佐竹宣家は寛永11年（１６３４年）幕府より従五位下但馬守を任じられ、名称も岩城宣隆と改めている。このことにより、「直」も亀田に入っていたが側室の身分から正室となり、藩主として認められたことになる。そのため「直」は真田の方と呼ばれるのが通例なのだが、岩城家では将軍秀忠に遠慮して「御田の方」と呼んだのである。

御田の方は、寛永６年（１６２９年）父母の菩提を弔うために妙慶寺を創建しているが、未開地亀田を見て、越後の妙勝寺から日砌上人を招いて久遠山妙慶寺を創建した。御田の方は子の訓育について優しく厳しく、自らの手で名君と呼ばれた重隆を養育している。また、亀田藩では良妻賢母の名が高く、武道にも秀でた女性と語られている。

若いときから法華経を信仰し、曾祖母　瑞竜院日秀大尼（豊臣秀吉の姉）をはじめ近親者に多くの信者がいた。御田の方は、生家真田家の再興に苦慮し水行なども行った。夫君宣隆公は、京都にいる弟真田左馬之助幸信を亀田城下に迎え、真田家再興に協力した。真田左馬之助は亀田藩士となり、しばらくの間「三好」と名乗っていた。

寛永10年、一人京都に残った母隆清院がご逝去との急報が御田の方のもとに届く。早速、妙慶寺円重院日砌上人を岩城家の特使として、京都菊亭大納言右大臣春季のもとに派遣する。日砌上人は近親者の参集を促し、丁重な報恩供養を厳修した。このことに感謝感涙した菊亭大納言は上皇に内奏すると、登殿することを下命される。謹んで玉顔を拝し岩城家の特使になることを言上すると、明正天皇より労をねぎらうかのように御紋付法衣の下賜があった。（妙慶寺に現存）

《顕性院の死》

この頃、顕性院と呼ばれていた御田の方は母の御供養も致し、明正天皇より御詞をいただいた。苦難をかさねた精魂は、江戸に参勤中の長子重隆公を訪れ、寛永12年（１８３５年）６月11日32歳で波乱の一生を閉じた。

亀田藩３代目藩主重隆は葬礼等を江戸で済ませ、久遠山妙慶寺の山号を開基の法名の顕性山と改め、妙慶寺を建立し遺骨を埋葬した。

夫君宣隆公は、「最愛のうら若い婦人が可愛子女を残して逝く心情を思うと、息もつまる思いがする」と顕性院の日常の手持品を妙慶寺に奉納した。（筆者紹介の写真を省略）

蒔絵衣掛（秋田県指定有形文化財）、および「お田の方」（由利本荘市教育委員会）

ふる里親睦旅行に参加して

岩崎みち子（菅平）

私は今回初めて旅行に参加させて頂きました。

日程の中で松本城、安曇野の大王わさび農場、鹿教湯温泉など初めて行くところがあり、とても楽しみに当日を迎えました。旅行日

は二日間とも晴天に恵まれ、素晴らしい長野の紅葉を満喫いたしました。その中でも鹿教湯温泉は、私の母が夏の農作業が終ると十日間程毎年のように湯場に行っていましたので、私にとって亡き母を偲ぶ一時にもなりました。

夕方、鹿教湯に到着しすぐに温泉にはいり、ホッとしたところでお食事でした。山間の旅館らしく山菜など故郷の料理を堪能することが出来ました。夕食後はカラオケを皆さんと楽しみ夜の更けるのも忘れるほどでした。

翌朝は九時に出発して別所温泉の見学、上田公園の散策と、東京にいる時には考えられないくらい歩きました。

その後、テレビ放映された真田丸のシーンを思い出しながらゆきむら夢工房、真田氏歴史館をめぐり大松農園でりんごの香りを楽しみました。最後には真田自治センター様から思いがけず段ボールいっぱいのキノコのお土産までいただき、とても楽しい旅行となりました。

このような機会がないとゆっくりと故郷を旅することは有りません。末筆ながら今回の旅行にご尽力頂いた皆様に感謝し、私の旅の思い出とさせていただきます。

☆　☆

☆ 第三十一回　総会・懇親会のご報告

事務局長　神田幸雄（横尾出身）

平成三十年五月二十日（日）快晴、アルカディア市ヶ谷五階「穂高の間」において第三十一回定期総会・懇親会が開催されました。

会員の出席者は三十名、ご来賓の出席者は二十名でした。

本年も、会場ではJAのご配慮で新鮮な地元野菜と新しい産品の販売や紹介もあって、故郷の香り漂う雰囲気の中で始まりました。

軽快で朗々たるBGMのもと「信濃の国」の斉唱はこの開式にふさわしく‼。

1. 総　会

司会　神田幸雄

1.1　会長山口元彦挨拶

皆様こんにちは。

本日は東京真田町の会第31回総会・懇親会にご出席下さいまして御礼を申し上げます。

会場にはご来賓として上田市長様、真田地域自治センター長様、同政策課様がお見えです。

市議会からは議長様をはじめ、副議長様、市議会で四名の方々においでいただいております。

JA信州うえだ真田地区では、事業部三名様と菅平店店長様、および女性部四名の方々においでいただいております。そして、皆様のお席にありますのはJA様からのお土産「かぜさやか」です。これについては後ほどご紹介があります。

さらに、東京上田会から副会長様、東京丸子会から会長様、および真田家直系の真田徹様にご出席をいただいております。

なお、土屋市長様にはご多忙の中を割かれておいでいただきました。後ほどご挨拶を賜ります。

さて昨年をふりかえりますと、創立30周年をむかえた総会では元町長若林様から当時の社会的背景や苦労話などにまつわる内容でご講演をいただきました。この要旨を会誌no.30に載せております。

残念だったことは、台風の影響でふるさと訪問を中止したことでした。今秋は10月28、29日に安曇野方面と故郷への旅を金子様が立案しています。ご期待ください。

いっぽう、このところマレットゴルフ参加者はなく、替って「四季めぐり」と題して近郊ハイキングを理事一之瀬さん、を中心に進めております。

さっそく、昨年の梅雨明けの7月末に高尾山行きを計画しました。ところが、あいにく雨で中止せざるを得ませんでした。でも、友人を5名も誘って参加してくれた会員方がいました。

今年3月には裏高尾の梅郷めぐりをし、7月には資料のように奥高尾へ散策します。ただ「・・このトシで山登りなどムリですワ・・」との方もいらっしゃるので、近場散歩も提案していきます。これらを、郵便などでご案内するのは無理ですので、本会ホームページ（HP）に揚げるほか、行事によく参加されている方へは電話案内をしています。

検索ソフトgoogle edgeなどをご使用の方はキーワード「東京真田町の会」で、HPのニュース欄をご覧くださるようお願いします。

つい先日、昨年まで市長をされていた母袋様から「本会の皆様へ」と御退任のご挨拶をいただきました。この場で皆様に報告するとともに、前市長への感謝の辞といたします。

ながい挨拶となりましたが、ごゆっくりとご歓談ください。

1.2　上田市市長の挨拶

土屋陽一様

紹介にあずかりました土屋でございます。２０１８年４月９日上田市長に就任しました。

本日は第31回定期総会・懇親会にお招きいただき心より御礼と祝賀の意を表します。

さっそくですが、今朝の信濃毎日新聞によると、この日に県歌が制定されたそうです。偶然の一致とはいえ、先ほどの「信濃の国（*1）」斉唱といい、ふるさとを想っている皆様方には重ねて祝賀の日であります。

最近のふるさとにおける話題は二つあります。ひとつは、菅平のワールドカップではイタリアチームが来ます。歴史的にみると、まず、幕末期に養蚕業で交流があり、今回の巡りで二回目となります。つぎの世代のためにも、この交流をもりあげて成果を残したいところです。

もう一つは、スポーツ施設の菅平高原アリーナ（菅平振興施設）が今年９月に誕生することです。もう、できていますので、幅広くご活用ください。

上田市では、今後、市民同士のつながりを大切にし、それを生かした町つくりにまい進したいと考えています。

お手元には、ふるさと納税のご案内もしています。皆様方のお志をいただいて次世代へ繋げてゆきたいと考えております。

以上のようなお願いごとなどを以って、私からの挨拶にかえさせていただきます。

このよき日、誠におめでとうございました。

（*1）「長野県民のほとんどが歌える」といわれる誕生のいきさつ－昭和41（1966）年に県章やシンボルを決定した際、県民意識の高揚のために「信濃の国」を県歌に制定してはどうか、との気運がもりあがりました。これをうけて、昭和43年５月20日に「信濃の国」が県歌として制定されました。編集部

1.3 議事

(1) 平成二九年度会務報告および会計報告　会長　山口元彦
(2) 平成二九年度会計監査報告　監事　荻原啓治
(3) 平成三十年度事業計画および予算の決定　会長　山口元彦

以上を全員一致で承認しました。

(4) 役員改選　会長　山口元彦
会　長　金子　誠（新任）
副会長　深町共榮（新任）
　　柴田小夜子（再任）
監　事　荻原啓治（再任）
理　事　神田幸雄(事務局長・再任)
　　坂口典和（会計・再任）
　　一之瀬和夫(編集長・再任)
顧　問　小林孝雄（再任）
　　清水清晴（再任）
　　三井芳郎（再任）
　　塩沢和政（再任）
　　中島正江（再任）
　　山口元彦（新任）

以上を全員一致で承認しました。

1.4 会長就任の挨拶

金子　誠

ただいま紹介にあずかりました金子誠でございます。傍陽は田中の出身です。

今思いますと、平成19年度から理事を、同22年度に山口様の会長就任とともに会計理事を６年ほど、同28年度から副会長を務めてまいりました。最近では旅行の企画なども担当しております。

このたびの役員改選では、前々から会長より「本日の総会を以って退きたい」とのご希望がありました。これをうけて理事一同、長きにわたりお務めいただいた会長の心中を察し「退任やむなし」に至りました。

理事皆様の推しをいただき、会長の任を引き受けざるを得ず、六代目会長を鋭意全うすべくあたるつもりでございます。

引受けたからには前会長以上に誠を以って本会に尽くし皆様とともに盛り上げたいと考えております。

この８年間の任をお務めいただいたことにたいし、前会長山口様には理事を代表して深甚なる感謝を申しあげる次第でございます。さらに、幾多の理事会および諸行事を運営されたことに感謝申し上げます。これからも顧問席から助言いただけるとのこと、厚く御礼を申しあげます。

さて、旅についてですが今は、安曇野、松本、上田、および鹿教湯温泉めぐりを企画しております。皆様の旧交を温める好機でありますので、多くの方々に参加いただきたくご案内します。

☆　☆

2. 懇親会

2.1 歓迎の挨拶

司会　副会長　柴田小夜子
顧問　中島正江

ご来賓の皆様、また会員の皆様、第三十一回東京真田町の会定期総会にご出席を賜り誠にありがとうございます。土屋市長の出身地は真田に近いところと聞いております。すので、大いに期待しております。

東京から故郷の空を仰ぎみるとき、ふるさと上田はもっと元気を

出して‼といいたいです。上田ICに道の駅を構えれば旅行者はこの地をもっと身近に感じますし、周辺も賑わいます。

日頃からJAうえだの皆様や女性方々の活躍とご努力に厚く御礼を申し上げます。上田の方たちはもっと上の方へのぼり真田辺りで蕎麦などを愛でて右往左往・・、ウロウロと散策しましょう。

ラグビーの話題なども東京の方へ大いに宣伝していただきたいし、関東圏での催物の案内などをもっと早く下されば、ふるさとはより近くなります。

ふるさと納税などをもっと宣伝していただいて、わたくしたちとの交流をもっと深―く拡げていただきたいです。

今日は、ふるさとから懐かしい話、賑やかな催しなどを沢山お持ち下さり本当にありがとうございました。

皆様、少ない時間ですが時間の許す限りおくつろぎ下さい。

2.2 来賓の紹介

司会　副会長　柴田小夜子

ご来賓の皆様を紹介申し上げます。

上田市行政関係の皆様

上田市市長

土屋陽一様（新田）

真田地域自治センター長

山宮正久様（四日市）

真田地域自治センター地域振興課地域政策担当

春原恵美子様（上塩尻）

上田市市議会関係の皆様

市議会議長

小林隆利様（鈴子）

市議会副議長

土屋勝浩様（長島）

市議会議員

古市順子様（竹室）

佐藤論征様（真田）

齊藤加代美様（海戸）

市議会事務局長

金井浩一様（緑ヶ丘北）

JA信州うえだ真田地区の皆様

理事　町田寿男様（真田）

事業部長

西沢栄泉様（竹室）

事業部次長

大塚昌幸様（真田）

菅平店店長

宮島英雄（戸沢）

女性部部長　久保町子（竹室）

同副部長　小笹光恵（大畑）

同副部長　松沢ふみ江（角間）

同事務局　柳沢美香（中組）

在京の他会の皆様

東京上田会副会長

高橋　清子様（福田）

東京丸子会会長

土屋　博様（上丸子）

仙台真田家第十四代当主

真田　徹　様

以上、二十名の方々にお越しいただきました。

2.3 来賓祝辞

○　上田市市議会議長

小林　隆利様

みなさんこんにちは。

この15日には菅平高原の開牧祭に招かれ、標高1700mの爽風に吹かれてきました。その風を「かぜさやか」の姿にかえて、本日は皆様のお席へお伴しております。どうぞふるさとの便りをご賞味ください。

土屋前議長が市長になられたので、4月26日から私がこの2年間の重責を務めることになりました。

このたびは第31回総会おめでとうございます。議会からは私のほかに土屋副議長、真田出身の議員4名、および金井事務局長がお招きにあずかり、嬉しいかぎりです。

御会も前年度までの会長山口様から、新会長金子様にバトンタッチされたとのこと、また顧問中島様のお話のように、皆様が故郷への深い愛情をお持ちのことなどを伺い、誠に嬉しく思います。

さて、昨年もこの場で議長代理として挨拶にたちました。そのとき、「今年のキーワードは、うえだすがだいら」であると申し上げておりました。

その勢いで、2019年ワールドカップのイタリアチームキャンプ誘致活動をしてまいりました。残念ながら公認キャンプ地を獲得できませんでしたがイタリアチームが練習に来ることになりました。

大成果を手にすることは成りませんでしたが、世界に上田の魅力を発信する好機となることを期待しております。

上田市議会を代表しまして、東京真田町の会のますますのご発展と、皆様のご健康を祝し御礼のことばといたします。

本日はまことにおめでとうございます。

○　JA信州うえだ真田地区

理事　町田寿男様

ただいま紹介にあずかりました町田でございます。本会の御盛会まことにおめでとうございます。

ふるさと真田の楽しい話題のひとつ、それは「きじ」の声で覚め、その姿をみたことが多く寄せられていることです。鳥獣および自然が近くへ寄ってきていることなのでしょうか。

きょうは、JA信州の女性方と共に皆様への挨拶にあがりました。携えてきたふるさとの便りを「全て完売してきた」ことを地元へのみやげにします。

乾杯の挨拶杉崎様　　会長を終えてハレバレ・・

斉唱信濃の国（50 年前の今日、県歌に制定されました）

ご来賓の方々ようこそおいでくださいました。

ふるさと真田の話題でもりあげ満載…

オットトト…　若い芸人さんだねエ~がんばるね。

久しぶりだね。来年もな！　そうだわさ。

余興の合間にも…忘れちゃなりません…＜うやうやしく重厚なセレモニーでアクセントをつけて＞

第 31 回総会・懇親会点描：来年も元気で会いましょう。さなだの皆様へ” せっこよくな～東京も元気ですよ～”

今年の真田の郷は、すでに春先から暑く、季節の花さくらも二週間ばかり早めで、レタスの菅平では、もうすぐ出荷の時季で忙しくなっています。今年もおおきな降雹がありました。

去年は葉物と果物におおきなヒョウ害がありました。でも農家の皆さんの汗と努力の甲斐あって乗り切りました。果尻へ雹撃があったリンゴの見た目は良くありませんが味は劣りません。そこで、打たれ強いとの意味をこめて、この恵みを「合戦りんご」で売り出しています。ワケアリの名称にも一理あり、ナルホドー　と頷いておりま

ふるさとの香りをの~せエ~て~JA 真田の皆様ありがとうございました。来年またお会いしましょう。

す。このようなことがマスコミでもとりあげられ、上田市のご協力の下これを「ふるさと納税の立役者」に仕立てていただいています。先ほどの話題にもありましたがワールドカップの伊チームが菅平で合宿ということも決まっております。かの地は高原野菜で知名度に定評があり、レタス120万箱が出荷されております。

そこで皆様に紹介するのがコレ・・、「菅平やさい箱」です。観光と農業でふるさと菅平を「すがだいらぶらんど」で売り出そう、と意気込んでいるのがJAです。

街中で、また通りでそんな荷箱を目にしたときには「ワ！菅平だ‼」と大げさに応援して下さい。

「農業は水から」の合言葉があります。「みず」といえば百名山の一つ四阿山はことしで開山1300年となります。そして、今年はこの頂上にある奥宮を壊す年にあたっています。

社は二つあり、一つは日本で最長の信濃川に、二つ目は次に長い利根川に向いており山頂はこれらの分水嶺となっています。二つの流域はともに多くの恵みをもたらしてくれています。さて、先週は、これらの奥宮を壊す行事に行ってまいりました。続いて、5月26、27日および6月1日にはこれらの社を改修する「山開き」が行われます。皆様には、ぜひとも、この歴史的催事にお立会いいただき、記念とされるようご案内します。

おわりに、皆様の会のますますのご発展を祈念します。

〇 祝辞披露

堀場秀孝様（長野県会議員）から寄せられた祝辞が披露されました。

〈東京真田町の会の皆様へ〉

東京真田町の会総会にあたり、心よりお慶び申し上げます。それぞれのお立場で、生まれ故郷真田地域の発展のためご尽力なされていることに心より敬意と感謝を申し上げます。

長野県では、健康長寿にも取り組んでいます。真田地域が子どもたちからお年寄りまで、安全で安心して暮らせる郷となるよう日々活動を続けています。諸先輩方々のご意見、お知恵をいただきながら、真田地域の発展にも努めてまいりたいと考えております。

会長をはじめ、会員の皆さまには、時節柄ご自愛頂きますとともに、益々のご活躍をご祈念申しあげます。

平成30年5月吉日

（上田市出身、丸子実業高校卒）

2.4 乾杯の挨拶

会員 杉崎壽三男様（菅平）

紹介にあずかりました杉崎でございます。私は昭和10年に菅平で生まれ育ち、千曲高校で一人前の教育を受けたことに感謝しております。その後、東京で建築事務所を開き、現在も現役でおります。

新市長様をはじめ、うえだ真田からおおくのご来賓方にお越しいただき、この晴れの日を迎えられたことは、私どもこの上なく喜びでいっぱいです。次の50年周年に向けて元気よく歩みましょう。

それでは、

みなさんの健康と上田市の発展を祝し 乾杯‼

2.5 宴会及びアトラクション

〇大道芸人ＫＡＹＡの舞

趣向をかえて、上田市の祭り催事でがんばっていた“大道芸人ＫＡＹＡ”さんに出演していただきました。筑波大学に在籍時の先輩が上田市の農政課に勤務しています、と自己紹介がありました。

シーン1 「ハラハラ」では、交互に直交配置した三つ重ね円筒上でダイナミックな曲芸を披露。

シーン2 「ドキドキ」では2mもの長いツイストバルーン（長細風船）をのみこむ芸を演じるなど、見ているほうは本当に案じていました（それってほんとに飲んでた？ダマシじゃなくって？・・の声が）。秘かに芸人のあとを追って事後処理のほどを確かめるべきでした・・。

テーブルを一つ一つ回ったＫＡＹＡさんへ「真田まつりもあるよ」、「丸子なんかにも」の声がかかるなど、郷土のお土産や激励も多かったようです。「場所さえ提供下されば音響など自前でやりますから呼んでください」とのことでした。

〇 歌謡と興奮の知恵勝負

出席者による日ごろ自慢の歌謡を楽しんだ者あり、「うえだ市りんご券」をめぐるテーブル毎の勝ち抜きジャンケン大会に興じ、勝者は予期せぬ喜びに浴しました。

興奮の締めくくりはJA信州うえだ真田地区ご提供の野菜獲得レースでした。

〇 輪踊り

恒例の全員による輪踊り「真田郷」でお別れの気分にうつり、

「ふるさと」の合唱をもって一年先の再会を期しました。

〇 中締め

宴たけなわでしたが、ご来方々の帰路もあって中締めとしました。

〇 記念撮影

2. 6 閉会の挨拶

理事 深町共榮

本日は、公私ともお忙しい中、皆様にご出席いただきありがとうございました。

つぎの再会に向けて、日々ご健康にお励み下さい。

☆ 総会出席会員

（三十名、敬称略・順不同）

―――― 長 ――――

一之瀬和夫（大日向）
岩崎 みち子（菅平・正木）
大橋 けさ子（菅平・山本）
荻原 啓治（四日市）
川上 年美（菅平・宮崎）
神田 幸雄（横尾）
坂口 典和（真田）
柴田 小夜子（菅平・市村）
杉崎壽三男（菅平）
鈴木 郁夫（横尾）
鈴木 邦子（横尾・鈴木）
武田 守央（真田）
中島 正江（戸沢・関谷）
山口 元彦（横沢）

―――― 本 原 ――――

岩井 泰子（中原・荻原）

―――― 傍 陽 ――――

井上 かつよ（田中・堀内）
金子 誠（田中）
桜井 和子（下横道・中沢）
佐藤 昌江（萩・柳沢）
杉村 房江（萩・落合）
関 弘吉（中組）
館野 清實（田中・堀内）
中沢 欣勇（下横道）
中村 洋子（田中・木下）
荻原 清人（萩）
平田 金子（岡保・橋詰）
深町 共榮（田中・山岸）
堀内 福（下横道）
堀内 保芳（三島平）
堀内 幸（上横道）

以上

次の第32回定期総会・懇親会は２０１９年５月21日（日）の予定です。

各部の活動報告

(一) 親睦旅行

計画 会長金子 誠
実行 理事坂口典和

二日間、好天に恵まれてよい旅を楽しみました（保険証持参）。

(1) 期 日

平成30年10月28（日）、29日（月）

(2) 旅 程

一日目：安曇野（大王わさび農場）・松本城・鹿教湯温泉泊

JR大宮駅西口ソニックビルのパレスホテル前に集合・鹿鳴荘の送迎バスに乗車14名（９時出発）～高速道東松山IC～（道中休憩２回）上里SA～（上信越道）横川SA休憩～11:40東御市で昼食（そば処草笛）・蜂天国（㈱塩沢産業）見学～鹿教湯温泉郷通過～安曇野「大王わさび農場」～松本城～17時半着鹿教湯温泉鹿鳴荘（予定は16時半のはずが道中楽しみもあり、宿着時にはトップリと日暮て）。宿で深町様が合流し15名の親睦会・カラオケ大会となりました。

二日目：別所温泉・上田城公園・ゆきむら夢工房・真田氏歴史館

鹿鳴荘を９時半に出発～別所温泉散策～紅葉の上田城公園散策～11:50着真田町で昼食（しんりん）・JAの歓迎～ゆきむら夢工房買い物など・自治センターの歓迎～真田氏歴史館見学～大松農園でりんご買い、13:40出発～上田菅平IC～関越道（適時休憩）～東松山IC～JR大宮駅西口ソニックビルのパレスホテル前着18:34。東松山からの一般道では退社時の混雑があり、計画より１時間ほど遅延びました。

昨年の中止分も一緒にして十分愉しみました。

食事した「草笛」の隣にあった蜂天国では、陳列されていた見事な巣に女王蜂の絶大な力を感じました。人為の出しゃばりもあったんでしょうが・・、それにしてもなんと巣柱の長いこと。

大王わさび農場では外国の若い人々も多く明るい賑わいでした。

大正４年に着手し、２年の歳月をかけて山砂利ばかりの荒地を所有者から購入し、圃場に育ててきたそうです。その規模は日本一の15丁歩とか・・。

わさびソフトを味わってみたら、たいして鼻にツーンとくるでもなく、ハナを押さえることもなく、平たんな味と香りでした。これに対し、わさびの匂い漂う土産舎は溢れた人息でむせるほどでした。

夕日をうけて、水面にその姿を映した松本城など初めてみました。

宿では、２年前から一人ふえて３人の娘を抱えた若おかみが迎えてくれました。その娘たちが見せてくれた洋踊りで宴会は始まりました。そして、時間延長したカラオケでさらに沸きかえりました。

明けて、二日目の朝は昨日より贅沢なバスで出発することになりました。ところが、運悪く乗り場で故障者がでたため入院先への付添人が必要になり、以後は13名の道行きとなりました。

余裕時間が少なくなったので別所温泉での参拝は北向観音だけにしました。上田城公園の堀まわり

で菊花展を、柔らかい日差しを受けて紅葉下を散策しました。「しんりん」で昼食の後、JA真田地区の方々から歓迎をうけ乾燥茸のお土産をいただきました。ゆきむら夢工房では真田地域自治センターの方々から歓迎の挨拶と、地場産のキノコ詰合をいただきました。同センターの方に添乗していただき、着いた真田氏歴史館では招待入館に甘え、初めて聴く「かたりべ」さんの解説にナルホド・・と頷き通し。

なごり惜しい秋晴れの二日間をあとにして、降りた夕闇の大宮駅では大きなミヤゲを提げ、三々五々わが家への道をいそぎました。

旅でお世話になったJA信州うえだ真田地区西沢栄泉様と久保町子様に、自治センターの山宮正久様、塚田雅彦様、宮崎忠博様、および春原恵美子様に、さらに「真田三代語り部の会」会長の西牧敏彦様に、一同、厚く御礼を申し上げます。

☆ **旅行参加者（敬称略15名）** ☆

一之瀬　和夫（大日向）
岩崎　みち子（菅平）
金子　誠（田中）
神田　幸雄（横尾）
小林　正子（下横道）
坂口　典和（真田）
佐藤　昌江（萩）
柴田　小夜子（菅平）
鈴木　邦子（横尾）
関　弘吉（中組）
中島　正江（戸沢）
平田　金子（岡保）
深町　共榮（田中）
堀内　保芳（三島平）
山口　元彦（横沢）

(二) スポーツ

（担当　荻原啓治理事）

(1) 春季合同ゴルフ大会

例年のように真田会と上田会（幹事）の合同開催により3月15日（木）、集合8：30、八王子の武蔵野ゴルフクラブ（☎042－691－2111）において参加者15名で行われました。

本会から飯島慶三郎氏と堀内政氏が参加しました。ベストグロスおよび優勝は池野厚氏でした。したがって、来春の幹事は同氏となりました。

(2) 秋季合同ゴルフ大会

真田会と上田会（幹事）の合同開催で11月14日（水）、八王子の武蔵野ゴルフクラブにおいて参加者10名で行われました。

本会からは堀内政氏が参加し、同氏がベストグロスおよび優勝に輝き、来秋の幹事の任を受けることになりました。

２０１９年度の春季開催は4月17日（水）、同クラブで同時刻を予定しています。みなさま奮ってご参加くださいますよう、追ってご案内を差し上げます。

(三) 四季めぐり

本年度は春の高尾山と梅郷散策の企画ではじまりました。7月も奥高尾ハイキングを実施しました。

(1) 春の高尾山と梅郷散策（通２）

ときは3月10日（土）、集合時刻と場所は、それぞれ9：30、および京王線高尾山口駅前。

前日の激しい降雨は未明に終息したものの曇天でひえ冷えの気温は14℃でした。事前の参加受付はしませんでしたが、春を待ちこがれていた方がてんでに参加し、9名となりました（会員7名、友人1名、お孫さん1名）。

①お孫さんたちの2名は別行動でケーブルカーを使って高尾山駅へ向かいました。②先発の2名は9時に1号路へ入り、③後発の4名は9：50に稲荷山コースへ入って、所々にある泥濘をふみ、頂上直下の急階段も踏破しました。②と③の班が頂で落ち合うと時を同じくして、先に頂へ着いてこの集団を探していた勇気ある1名にバッタリと遭遇、合わせて7名はこの幸に歓喜しましたー。

ホッと一息・・、時おり晴れ間もあり、早めの昼食のあと下山しました。帰路は4号、2号路と、さらに蛇滝を経て裏高尾の梅祭りをたずねました。路すがら小仏川の清流や3分咲きの梅花を眺め、祭りのお囃子が流れている所で一服、無事を祝して「霊山にむかって「乾杯！」。JR高尾駅にて15：40に解散しました。

この行程で休憩を除いた徒歩の時間は、登り100分、下り90分ほどでした。

(2) やっと仲間に会えた！山頂で

(1) 京王線高尾山口駅前で

⑵　深緑の高尾山と城山散策（通３）

7月27日（金）9時、京王線高尾山口駅前集合。気温高く熱中症の恐れがあったためか参加者は2名でした

午前は曇天、11時以降に晴れ間がみられました。

1) 行程　9:05発高尾山口駅前―稲荷山コース（あずまや休憩10 min、頂下で同5 min）、10:30着高尾山頂、発10:45、11:37着城山茶屋（昼食1h）―12:40発下山―4号路吊橋―参道―金毘羅台（旧道経由、ろくざん亭）―14:45着旧道石碑―15時着JR高尾駅、解散。

2) 全所要時間　5h 55 min、内訳：休憩・昼食1.5 h、徒歩4h 25 min。

3) 天候概況　台風12号は奄美大島にあり稲荷道の中ほどから稜線の木立を上がってくる微風を感じた。帰路は高尾山辺りから晴れ間が多くなったが、蒸し暑さを感じない爽やかさであった。

日頃のわずらわしさを忘れ、もっぱら半世紀前のふるさと話に笑い、ときにはたたみ方などに思いを馳せながら、たわいもない雑談にくれたハイクでした。

☆　☆

会長を退任して

山口　元彦（横沢）

私は、平成22年から8年間、東京真田町の会の会長を仰せつかってお世話になりましたが、平成30年5月20日の第31回総会をもって退任しました。大層つたない会運営で、皆様にご迷惑をおかけしたのではないかと、心苦しく存じます。

この間、会員の皆様には、種々ご協力をいただき、まことにありがとうございました。また、上田市長様、議長様、議員様、真田地域自治センター長様、並びに各方面の職員の皆様には、多大なご助力を賜わりました。厚く御礼申し上げます。

当会は、昭和63年に、真田町発足30周年記念事業のひとつとして、真田町出身者の親睦とふるさととの交流を深めることを目的に、町当局の肝いりで創立されました。

当初の会員は、真田町当局が、町内全戸に東京・神奈川・埼玉・千葉の居住者を照会し、紹介を受けた方全員に加入案内をした結果、５３４名の方々が加入を希望されました（「日本ダボス」創刊号の三井俊男様の記事）。創立総会は、会員の半数近くに当たる２６０名、町当局・議会・各種団体及び国会議員など来賓65名、総勢約３３０名が出席されて、熱気のこもった盛大な会でした。

しかし、10年、20年と経つうちに、会員もだんだん高齢化が進み、亡くなられたり体調不良等により退会される方が続きました。また、当初会員の中には、帰属意識が希薄な人も相当数含まれており、20年ほどはそのままの人数を維持する形をとってきましたが、その後、できるだけ実体に合わせるため、長年にわたる会費未納者や総会案内への無回答者等を徐々に除籍してきました。その結果、現在の会員数は約１８０名となっていますが、この方たちは、総会・旅行などに参加されたり、参加が困難でも、「日本ダボス」等を楽しみにしてくださり、投稿をしてくださる方もいらっしゃるなど、本当の意味での会員であり、大切な方々です。

私は、このような状況下で会長を拝命しましたので、会の継続と発展のために、次の三つの課題に取り組むことを目標にしました。一つは、この会を、会員の皆様にとっていっそう楽しく有意義な会にしていくこと、二つ目は、私の年代よりも若い会員を増やすこと、三つ目は、「ふるさと」のイメージの再構築と交流のあり方を追求することです。

一つ目の課題ですが、真田町時代は、総会には町の幹部（行政、議会）の方々のほか、町内の諸団体（区長会・婦人会・長寿会等々）の代表や消防音楽隊、真田郷保存会など、大勢の皆様が大型バスで駆けつけてくださいました。その方々の中には、出席会員の知り合いや田舎の家の近くの人など、非常に身近な方々が含まれており、大いに話が弾みました。ところが、平成18年に4市町村が合併し、町内諸団体からの出席はなくなりました。市長様あるいは副市長様、議会議長様・議員様方が、ご多忙な中を駆けつけてくださって、上田市及び真田町の近況などをご紹介いただき、また、懇親を深めてくださっており、心から感謝しておりますが、それでもやはり、町内の身近な方たちのようにはいきにくい感があります。

そこで、「真田丸」放映に合わせてディレクターに話をしてもらったり、幸村公後裔の真田徹様に出席をお願いするなどし、また最近

はJAの真田地区の幹部の方々や女性部の皆様もおいでくださって、交流の輪を拡げつつあります。また、「日本ダボス」の内容を充実させるため、一之瀬編集長が、地元の方々に町の話題を寄稿していただくなどの努力をしております。

二つ目の課題については、真田中学校の後輩への働きかけをするために、中学の関東同窓会のようなものを作ることから始めようと考えて、平成23年11月に、当会会員中の真田中学校1～5期の有志により、「真田中学校関東同窓会準備委員会」を立ち上げました。しかし、協議した結果、卒業生名簿の入手すら困難な状況なので、まずは有志による呼びかけの形で、肩ひじの張らない集いを積み重ねることになり、平成24年9月に、東京スカイツリー見学と隅田川舟下りをメインとする「はとバスツアー」を行い、20名が参加しました。その後も気楽に集まれる企画を重ねつつ、少しずつでも参加者を拡げていこうということになったのですが、あいにく、委員会の事務局を引き受けてくれていた花岡孝雄さんが体調を崩されたり、私も田舎で一人暮らしをしていた母の介護が必要になったことなどの事情から、次の企画をする余裕がなくなり、開店休業になってしまいました。

三つ目の課題は、新幹線や高速道路が開通し、ふるさとがたいそう近くなり、「ふるさとは遠くに在りて思うもの」という「郷愁」は遠のいてきている感じがしますし、また、若い人たちは、インターネットを通じて全国的さらには世界的な情報交換をするようになり、その結果、「むら」単位の帰属意識は希薄化し、当会のように「郷愁」を軸にした集まりは難しくなってきております。このような状況のなかで、あらためて、「ふるさと」をどのようにとらえ、どんな形の交流をしていけばよいかを、地元の催しに参加するなど、実際の交流を通じて具体的に感じ取っていくことが大事だと思います。そこで、ふるさと訪問でも、発想を変え、新築された傍陽小学校や真田図書館など、町の新しいところの見学も試みました。また、当会のホームページや日本ダボスをお読みになった地元の方たちから、「上田城下町ウォーキング」や「真田の郷行列ウォーキング」などの行事へのお誘いをいただいたこともありますが、費用面その他の事情で実現できませんでした。

振り返ってみますと、どの目標にも遠く及ばず、まことに拙い会運営に終始してしまい申し訳ありません。それにもかかわらず、総会にご出席くださったり旅行に参加されたりして親しくまた温かく見守ってくださった方々や、総会案内の返信で近況をお知らせ下ったりダボスの感想を書いてくださった方々に接して、励ましをいただいてきました。心よりお礼を申し上げるとともに、この触れ合いを大切にしていきたいと願っております。今後ともよろしくお願いいたします。

なお、設立以来二十数年間１００円だった年会費を、平成28年度から１５００円に増額させていただきました。ご協力に感謝申し上げます。

菅平高原アリーナの開館について

菅平高原アリーナ所長
伊藤　岳彦

本年九月から菅平高原アリーナの所長を仰せつかりました伊藤岳彦と申します。三月までは、真田地

《広告欄》

九段中央法律事務所

誠実に、確実に、そして親切に

弁護士　山口元彦　　弁護士　鈴木　謙
弁護士　奥野伸二郎

〒102-0073　東京都千代田区九段北 1-10-1
九段勧業ビル５階
TEL 03-5215-1511 FAX 03-5215-1512

不動産に関する問題　相続問題　金銭問題
交通事故　刑事事件・少年事件　その他

地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線　九段下駅
徒歩５分（ホテルグランドパレス向かい）

域自治センター地域振興課に在籍しており、微力ながら東京真田町の会の事務担当をさせていただいておりました。四年間ではございましたが、会長をはじめ会の皆様にはお世話になりありがとうございました。総会等の折には、会の皆様に気軽に声をかけていただき、大変よい思い出となっています。

竣工菅平高原アリーナ

さて、私からは九月に開館した「菅平高原アリーナ」について、触れさせていただきます。御存知のとおり、菅平高原は、歴史ある「スポーツ合宿地」として、ラグビー、陸上競技など、全国から１５００を超えるチームが訪れております。これまで、合宿する選手などから、多様化するトレーニングに対応できる「屋内運動場」や「トレーニングジム」等を備えた施設の整備を望む声が多く寄せられておりました。こうした施設の整備は、地域の皆様の長年の願いでもあり、地元関係者で検討が続けられてきました。

また、２０１９年に開催する「ラグビーワールドカップ日本大会」に向け、市内の観光商工団体や、スポーツ団体等の皆様による「上田市にラグビーワールドカップ　キャンプ地を誘致する会」が、平成二十五年五月に設立され、その後、２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地も含めたスポーツ合宿の誘致が進められておりました。これらの国際大会開催を、「菅平高原」の魅力を世界に発信する大きなチャンスと捉え、キャンプ地誘致の取組とともに、合宿環境の充実、また、地域住民の生活環境の向上や、さらなる地域振興、産業振興に向け、多目的に利用できる施設の整備を進めていくこととなりました。

建設工事につきましては、平成二十九年三月に着工し、本年六月には建物本体が完成し、駐車場などの外構工事は、八月上旬の完成となりました。

建設された場所は、菅平高原国際リゾートセンターの南側に位置しており、敷地面積は８２２５㎡、延床面積２５２６㎡、鉄骨造二階建てとなっております。建物内部には、一階に「競技場」、「更衣室」、「シャワールーム」、「クールダウンルーム」があり、また、二階には、「トレーニングルーム」、「ミーティングルーム」があります。この施設の特徴的な点としましては、冬場でも快適に御活用いただくため、競技場を含めて、すべての部屋に暖房機が配置されております。また、「クールダウンルーム」には、トレーニングによって疲労した体を冷やし、また、暖めることによって、効果的に疲労回復を図るための設備となる、「アイスバス」、「ホットバス」を完備しています。

以上が経過と施設概要となります。今後、この施設を、より多くの方々にご利用いただけますよう、地元の皆様とも連携を図りながら取り組んでまいりたいと考えております。

会の皆様におかれましては、真田地域にお帰りなった際には、菅平高原アリーナにもぜひお寄りいただければと存じます。当日、予約なしで使用できる更衣室やシャワールーム等もございますので、お気軽にお声掛けください。

終わりに、会の益々の御繁栄と会員皆様の御健勝と御多幸を心から御祈念申し上げます。

『美しきかな　わが郷は』

長谷寺住職／真田の郷まちづくり推進会議会長　宮下俊哉

《広告欄》

空き家・留守宅・空き家の管理　お任せください

大切なお家を
建物のプロが
しっかり守ります。

お電話ください

㈱空き家のおまわりさん

〒386-0151 長野県上田市芳田 468-6
（㈱幸和建設内）
代表取締役　宮下　幸良
TEL 0268-36-3114
FAX 0268-36-3838
mail : info@kowa-kensetsu.jp

♪美しきかな　わが郷は
♪そら紺碧に　雲ひかり
♪あずまや　烏帽子の　峰高く
洗馬神川の　水清き～♪
（真田中学校校歌より）

大河ドラマ「真田丸」で賑わった真田の郷も真田らしいのどかな美しい郷に戻りつつあります。ふるさとはその一人ひとりの故郷にとって美しいところであると思います。

東日本大震災より7年。真田中学校生徒会では２０１１年の東日本大震災においてその年に支援を行ったのをきっかけに、宮城県山元町の「やまもと幼稚園」と交流支援を続けてきております。8月、生徒会が震災より7年経過した幼稚園を訪れました。常磐線が高架になり、道路や住宅など新しいまちづくりの復興が行われており見た目は綺麗な街並みが出来つつあります。7時間バスに揺られて訪問した真田中の生徒さん。園児と一緒に遊んで、先生や語り部さんから話を聞きました。そして、震災遺構として残されている被災した小学校を見学。未だに、涙ながらに話す先生。そして、真田中学校の生徒さんが来ることに励まされ、そのうれしさから今年は先生が御礼に真田中学校まで訪れました。

一人ひとりの故郷の地は、一人ひとりにとってとても大事な処であり、生徒さんも実際に訪れることで、お互いに影響をしあっていることが、同行した私も感じ入るところです。

一方、こちらは東京学芸大学附属国際中等教育校（以下ＩＳＳと略します）の中学生と高校生のボランティア部の生徒さん。生徒自ら地域貢献をしたいと立ち上げたボランティア部。縁あって、今年３月、中学生と高校生の22名が真田を訪れました。

菅平、長、そえひ、本原のグループに別れて、それぞれの地域を歩いていただき、真田中央公民館に戻ってみんなで真田で感じたことを地図に落とし込みながら話し合いました。

≪菅平≫・・・東京ではめったに見ることができない雪が3月に残っていることに感動したり、自然の豊かさに感動。

≪長≫・・・農業の畑を見たり、きれいな自然をみたり、角間渓谷の自然に触れたり、染色家の家を訪れてみたり。

≪本原≫・・・自転車で駆け抜けて真田氏本城跡で見つけたゴミにがっかりしたり、ヤギに出会ったり。

≪傍陽≫・・・耕雲寺様でお茶をご馳走になったり、寂しいふるさと公園を見たり。

各地域をまわって写真を撮って、そこから出来上がった大きな地図は、私たち地域に住む大人の目線では気がつかない、東京からの生徒さんたちの素直な目線の真田地図でした。

思えば、自分がその地元にいると気がつかないこと、自分がその物事の渦中にあると、身近なものが当たり前になってしまい、魅力が無いと思ってしまったり、自分の思い込みで「これがいい！」と決めつけてしまうことがあります。・・・外からの目線や年代の違う視点は気がつかない地域の発見をさせてくれました。また、地域から出てみることなどで自身が、お互いの大事なものに気がつくことがあるんだな・・・と感じさせてくれました。

真田中学校の生徒さんも、ＩＳＳの生徒さんも、自分の故郷、そして一人ひとりの生活の故郷を感じていただいたのではないでしょうか？この若い目がやがて地域を日本を世界をリードしていくことだ

《広告欄》

齋藤指圧治療院

齋　藤　勇　一

（真田出身）

〒153-0043　東京都世田谷区松原 5-56-10
シャポール東松原 301 号
☎ 03-3322-6622

と思います。
　東京真田町の会の皆さんも、私たち真田に暮らしている人とは、違う角度から・・・記憶に残る昔の風景との違い、新鮮な真田のこと、残念な真田のことを感じておられるかと思います。そんな声をぜひお届けいただければ、真田を引き継いでいく私どももうれしく思います。
　私も、多角的な視点でさらに真田を見ることを忘れずに、美しい郷を伝えていけるよう共に真田を大切にしていきたいと思います。

〽輝く理想　羽ばたけん
（真田中学校校歌の三番の最後の歌詞より）

にっこりちゃん農園だより

鈴木継彦・桂子（横沢在住）

　みなさま初めまして、にっこりちゃん農園の鈴木です。神奈川県から真田町横沢に引っ越してから今秋で11年目となります。
　百姓をやりたいと思い、ご縁があってこの地で無農薬・無化学肥料で穀物や野菜を栽培しています。
　このたび、日ごろいろいろお世話になっているJA信州うえだ真田地区女性部久保町子さんを通じて、農園の私たちを紹介させていただくことができました。感謝します。
　私たちが扱っている穀物のうち、菽穀類（しゅこくるい）では大豆、小豆、黒豆、白インゲンなど、禾穀類（かこくるい）ではハト麦、粟、エゴマ、もちきび、アマランサス、タカキビ、もち黒米、もち赤米です。

めぐみにえがおを

里のめぐみ”あわ”

　残念ながら、今年のタカキビ（高黍）はぜ～んぶ鹿のお腹へおさまりました。
　これを機会に、みなさまの食卓やくつろぎのひとときに、真田のめぐみを話題にしていただけたら嬉しく思います。
　〒386－2201 上田市真田町長3265番地、☎0268/72/3274
〈編集部より　ふるさと訪問旅行で二日目の29日、「しんりん」で昼食のあとJA事業部長西沢栄泉様と久保町子様の歓迎を受けお土産に乾燥エノキ茸をいただきました。
　さらに、同女史から一行のために同園が作成された紹介記事（写入りA4判1p.）を頂きました。じつは、昨年から「さなだで無農薬栽培や種子保存に取組んでいるかたを探しています」と一之瀬が同女史に相談しておりました。同記事へ一部分追加してここにまとめました。〉

私の長村小学校・真田中学校時代

坂口典和（真田）

一．小学校昭和27年4月入学
一年生　生徒数
○　東組27名(?)、担任は井出うしお先生。
○　西組27名、今井みよ先生（私の担任）。
　入学式の日、担任先生の紹介は二宮金次郎の銅像が置かれていた二階の畳の部屋で行われた。この部屋には使われていないモーター（サイレン）が取付けられていた。

《広告欄》

有限会社　千曲美装
一般社団法人　優良リフォーム支援協会会員

代表取締役 宮下　毅

〒386-0015　長野県上田市常入 1-7-104
Tel 0268-23-7896　Fax 0268-23-7813
e-mail　t_miyashita@chikumabiso.co.jp

アパート、マンションから
一般住宅までリフォーム・
メンテナンスの全てをお引き
受けいたします。
お気軽にお声かけ願います。

上田城外堀の上田丸子
電鉄軌条跡で撮影

今の様な立派な入学記念写真は無い。井出先生が撮られたのだろうか、斜め前から撮った写真が一枚有る。斜めからの写真に今まで何の疑問も持たないでいたが、今思うとカメラ性能が低かった時代、全員を一枚に入れて写すには遠くから離れて撮るしか無く、それでは人物が小さくなってしまう。斜めは苦肉の策だったのだろう。服を新調している人は誰もいない。皆それぞれの服装だ。

教室の机は幅１ｍ程の二人掛けの木製。上開き。正面向かって右が男性、女性は左席に座った。座席順は、生年月日順だった。私は二番目だった。呼び方は、男性は名前に「君」、女性は「さん」付だった。授業の始まりと終わりは、用務員さんの振る風鈴が合図であった。

２～４年生　担任久保田茂先生。

このころに授業時間を知らせる方法は風鈴に代わってベルになった。久保田先生が「ベルと言う物だ」と教えてくれた。

学校給食もこの頃始まった。それまでは弁当だった。最初は給食希望者を募った。希望は一回でも数日でも何日でもよかった。

しばらくして、一斉に給食に切り替わった。味噌など定期的に学校に持っていった。

使用する教科書は、兄弟や上級生から無償で譲り受ける事もあった。だから教科書は大切に使った。新聞紙などでカバーをして使った。

黒色で塗りつぶされた教科書は、私達は使ったことはなかった。

この頃だと思うが、各教室に雨傘が何本か配布された。急な雨があっても親は忙しく、迎えに来てもらえない生徒がいたからだ。

５～６年生　担任宮島清先生。

旧長村中学校として使われた校舎を五年生から使い始めた。

高学年となっていた私達は、たまたま真田中学に大学生のコーラスグループが来るというので、聞きに行った。行く前に先生からコーラスの最後にアンコールが有ると教えられていた。この時初めてアンコールというものを知った。中学生と一緒に一生懸命拍手を送った。

宮島先生は児童劇に力を注いでいた。そんな事から玉川学園の斎田先生と懇意にしていた。

６年生の時、児童劇に関係する多くの先生方が夏の菅平に集まった。私達６年生は長村小学校講堂で「鳩」という劇を先生方の前で演じた。事前に玉川大学教授の指導も少し受けた。

家は学校まで４～５分。クラスで一番学校に近かったので、家庭訪問はいつも最後だった。私の父も宮島先生もお酒が大好きで、お酒を婆さんが進めると断る事は無かった。酒の勢いで私を「ていだい＝帝大に行かせてやる」と意気込んだ。私は眠くなった布団の中で聞いていた。早稲田、明治、慶應などの６大学は知っていたが「ていだい＝低い大学」など行きたいとは思わなかった。願いは叶った。が、少し残念だったか？

運動会では校庭いっぱいに６年生全員で野外劇をした。「波頭千里を」、海をテーマにした劇だった様に思う。

卒業式での「お別れの言葉」も、一人代表が行うのではなく、全員がパートを受け持ち声にし別れを告げた。

◎遠足で訪れた場所

〇　一年生

初めての遠足、お屋敷、城山

〇　三年生

菅平高原（雨）。生まれて初めてバスに乗った。道は凸凹みち。車酔いの心配の人は薬を飲んで前の方

《広告欄》

ゆっくり湯治してほしい温泉宿。かけ流しの温泉でココロも身体もほかほか。
心を込めた手作り料理も宿の自慢です。
無料送迎バスで、皆様のすてきな旅をお手伝いします。

信州鹿教湯温泉　水車のまわる宿

TEL 0268-44-2236

〒386-0323 長野県上田市鹿教湯温泉 1422

ろくめいそう 鹿鳴荘

に座った。
当時の道は今、菅平ダムの湖底にある。道は狭く急なカーブが多く、あちこちに「警笛を鳴らせ」の表示が書かれていた。
先生からは出発前「運転手さんに声を掛けないように」と言われていた。運転に集中できないからだろう。

○　五年生

烏帽子登山。夜発熱した為、真田診療所の車が深夜、宿に迎えに来て旧鹿沢温泉から引き返した。その後未登頂。長野善光寺、長野毎日新聞社汽車で行った。乗るのは初めてだった。雨の為、善行寺縁側で昼食。今でもできるか？

○　六年生

修学旅行　直江津、鯨波旅行。白米持参であった。
分校の大日向小学校と初めての合同行事であった。直江津で水族館をみる。それから海辺の宿に向かう。海を見たさに先走り、宿に着いて先生から呼び出される。

◎　保健康衛生

○　持物調べ衛生確認

ハンカチ、手拭い、爪の長さなど、定期的にチェックされた。鼻紙など無い。新聞紙だ。だから鼻の回りが黒くなる事もある。爪切りが無い家も有り、久保田先生は教室に爪切りを用意してくれた。男性は腰から手拭いを下げてかっこよく通学した。

○　DDTの散布

女性の長い頭髪にたかる、のみ、しらみなどを駆除するためDDTを女性の頭に散布した。手拭いで覆って日々通学した。
「げんのうしょうこ」を煎じて全員が飲んだ。回虫対策だったのか？よく分からない。
検便検査の結果が手渡される。皆ドキドキする。心の中で祈る。赤＋印が無い様にと。
そんな「げんのうしょうこ」を学校は一貫め10円程で買ってくれた。10円欲しさに夏休みは、沢山集めた。30円ぐらいは稼げた。

○　身体検査（身長、体重測定）

当時はまだパンツを履いていない人も珍しくはなかった。だから先生は検査日を前もって教えてくれた。検査日にはパンツを履いて来て、恥ずかしい思いをしないようにである。それでも・・・。

◎　学校での遊び

講堂での鬼ごっこ。校庭でのハンカチ落とし。講堂の廊下での、めくら鬼。廊下の梁に吊り下がり鬼の通り過ぎるのを待った。
サッカー。ルールは手を使わない事だけ。いたって簡単に。ゴールは校庭中央の石階段と反対側の板フェンス。山口紀美子さんは身長も高く遠くにボールを蹴った。
教壇を台にした卓球。ラケットは手作りも。ラバーなど無い。久保田先生がラケットの振り方を教えてくれた。下から玉をすくい上げ顔に向かってラケットを振り上げる、日本卓球の全盛期時代のスタイルだ。今は中国スタイル，前衛速攻だ
馬飛び、ふた手に別れ、負けた相手が馬となり、それを潰さんと高く遠く飛び上がり馬の背目掛け急落下。教室の机を脇に寄せての相撲大会。小宮山勉君が強かった。得意は投げ技だ。小宮山君は小柄だったので私は簡単に勝てるだろうと油断していた。立ち上がった直後、あっという間に投げられてしまった。
冬は校庭で男女紛れて雪合戦もした。

○　ドッチボール大会の開催

ルール無しで楽しんでいたドッチボールを、五、六年生4クラスで対抗戦をする事になった。ルールを定めて審判のいる競技は初めてなので少し緊張もした。私達は六年生であり、五年生には絶対負けないように頑張ろうと、全員で誓った。私は、外側から中にいる相手にボールを当てる役に回った。五年生には負けなかったが、東組に負けてしまった。良い体験だった。

《広告欄》

東京真田町の会

顧問　三井芳郎

〒386-2203　長野県上田市真田町傍陽 11510

☎ 0268-73-2616

○　運動会

運動会はいつも早朝の場所取りから始まった。クラスごとの競技は、一着、二着、三着の生徒には賞品がでた。又、生徒と成人が一緒にチームを組む競技や、成人同士のチームが競う種目は部落対抗の得点獲得競技（リレー、マラソン、他）となった。競技が終り得点が書き換えられる毎に大きな歓声とため息が交差した。

◎　家での遊び

パッチン。てんこ。ビー玉。縄跳び。ゴム飛び、こま回し＝（手のせ，肩かけ，綱わたり）これくらいの技は多くの人が出来た。

金輪＝カラカラ音を立て一本の金棒で左右自在に金輪を操った。ケンケン遊び。モンペモンペ・あや取り、その他沢山。

二　真田中学校

◎　昭和33年４月真田中学校入学

○　生徒数　男子99人女子　87人、合計176人（生徒数は全て卒業生数）。

１組44人、担任　堀内正一郎先生
社会担当。
２組44人、担任　松井照好先生
国語担当（私のクラス）。
３組44人、担任　清水義衛先生
体育担当。
４組44人、担任　篠原茂文先生
理科担当。

神川が脇を流れていたが建物は全く無く、広い校庭の周りにはフェンスさえも無かった様におもう。

運動会は一年生の時のみ行われた。それ以降はクラスマッチ大会に代わった。

○　行われたクラスマッチ

陸上、野球、バスケットボール、卓球、駅伝

○　スポーツクラブ

野球、バスケット，卓球、バレーボール、軟式テニス。

私はバスケットボール部に入った。キャプテン倉島盛茂君、そして長身１７０センチ（?）の坂口周治君、その他選手の活躍で三年生の時に初めて上小大会（上田市・小県郡）で準優勝をした。優勝は上田一中だった。一中にも坂口君と同じくらいの長身の選手がいて良いライバルだった。上田一中と真田中学が東信大会に進んだ。東信大会では初戦で敗れてしまった。

サッカー部は無かった。サッカーの上小大会の開催が決まると各スポーツで活躍している選手が呼び集められてチームを編成した。そんな即席チームでも真田中学は連続優勝を果していた。私は呼び寄せられなかった

○　遠足

鬼押し出し、中二　妙義山登山

○　修学旅行

江ノ島・鎌倉、東京

旅行の関心の一つに水洗便所があった。地方には水洗便所はない。だから知識は皆無。宿に着いて直ぐトイレを見に行った。見て少しがっかりした。私が頭の中に造っていたトイレは、便器には底が無くそこを通過した汚物は下のコンクリートの上に落ちそれを豪快に川の様に流れる水が洗い流す。本物は簡潔すぎた。水は便器の中を流れ終わってしまう。私のトイレの方が面白い。

上野動物園見学の後、地下鉄で上野から三越まで地下鉄に乗った。そして天女の有る三越デパートの屋上で昼食をとった。アンパンと牛乳程度だったように思う。

訪れた場所　東京タワー、国際劇場、国会議事堂、東急プラネタリウム、皇居前など。

○　名物先生　高遠直一先生

科目「職業」担当

授業の中で38の数字を頻繁に口にした。これを皆喜ぶので先生も益々この手で授業を楽しくした当時は中学を卒業すると就職する人も何人かいた。そのため就職に車の知識がある方が有利だろうと、学校に有った小型トラックを全三年生男子は運転し校庭を一周した。

後記　ここに記した事は薄れた記憶の中から引きだしたものであ

《広告欄》

東京真田町の会

顧問　塩沢和政

（大日向出身）

〒276-0046　千葉県八千代市大和田新田 1074-37

☎ 047-450-3348

るので、間違いが幾つもあるかもしれません。お許しいただき度くお願い致します。これらに気がついた方はご指摘など連絡下されば嬉しく存じます。

「妹」

鈴木邦子（横尾）

日々慌ただしく一日が短く感じる昨今である。子供の頃を振り返るとお正月が待ち遠しく感じたものだ、そんな頃を懐かしく思い出す。これも寄る年波のせいかと思う。それにしてもどうしてこんなに忙しいのかと考えた時以前とは違い何をするにも素早く出来なくなっているのかも知れない、気持ちでは毎年、今年も年を取ったと引き算をしては自分自身を励ましていたがやはり体は正直に相応の体力に成っている。

人生八十年近くにもなって来るとほぼ毎年のように様々な出来事が起きてくるものだ。

つい先頃妹が他界した。私は十人兄弟姉妹の八番目に生まれた。すでに姉二人と兄二人を亡くしているが遠く離れて暮らしていたせいもあり悲しみも寂しさもあったものの世話に成っただけとの思いが強く悔やみもしたが、以外にもそれ程ショックではなかったかもしれない。しかし妹の場合は何か違っている。それ程まったりしていた訳ではないが妹は五年程前に連れ合いを亡くして以来精神的に弱気になっていたのか、一・二年前までは、ほぼ毎日のように電話をかけてきた。他愛のない話をするのみだったが、妹は「すっきりした」と言い二人の長電話が終わっていた。近頃はお互いダイヤルを回すことも少なくなり、つい疎遠になっていた。今思えば心配をかけたくないとの気持ちからだったのかもしれない、気に成り電話するも応答がなく心配に成り昨年八月も終わりに近い頃突然訪ねて見た。

すると腰が痛いしあまり体調も良くないとの事だったが、毎日医者に診て貰っているから大丈夫と言っていた。帰り際に「マッサージは止めて貰ったほうが良いかもしれないよ」と助言だけした。その後九月に入り姉が亡くなり行く事になり車中で合流した、その際もかなり辛そうだったが少しも弱音は言わなかった

色々と話す中、心配性で子供のことばかり心配していた。そんな妹に「親である事に違いはないが意見ばかりせずに時には甘えたり、頼ったり、子供に心配を掛けることも必要かも知れないよ」と少しばかり忠告した。

あくる日も共に帰り妹の動作が気に成ったが、最寄りの駅まで子供に迎えに来てもらうとの事だったので大宮で別れた。（後に思ったが相当我慢して無理をしていたのでしょう）

今年は冬の寒さも格別だった。二月も終わりに近い頃妹と一度も登山などしたことはなかったが何故か二人で美ヶ原に行った夢を見た。その後まもなくだったが、父親から「カメ子（母）危篤」の電報が届いた夢を見た。奇しくも若いころからこの様な夢を見ると必ずと言っても過言ではなく身内或いは知り合いに何か起きていたので、すっきりしない気持ちでいた。

忘れかけていた頃、四月に入り間もなく息子からの知らせで母が三月半ばに入院しており容体が思わしくないとの事だった。急ぎ病院に駆け付け病室に入り愕然とした。

「なんで?」「どうして?」と自分を責めてしまった。

その後次々に姉や弟そして甥・

東京真田町の会
清 水 清 晴
（中横道出身）
〒201-0002 東京都狛江市東野川 3-12-2
☎03-3489-0763

東京真田町の会
北本市都道府県人連合会
長野県人会
会長 **金 子 誠**
（田中出身）
〒364-0035 埼玉県北本市西高尾 4-156
☎048-591-4728

姪たちが駆けつけ見舞っていた、嬉しかったのか、皆と会い安心したのか日増しに元気を取り戻し笑顔で「随分皆に心配を掛けてしまったね」等と言い冗談めいた事まで言っていた。

こんなことも有った、見舞った私が帰ろうとすると珍しくまだ帰らないでと言っていた。そうこうしている内に五月に入り自主的に体を動かすことが多くなり食欲も出てきたので自宅療養を余儀なくすることに成り退院した。まだ自力での歩行は無理だったが家に戻りよほど嬉しかったのでしょう。娘の手造りの食事等も喜んで食べ娘たちの献身的な看護の元驚くほど元気を取り戻して来ていた。妹は満面の笑みを浮かべ「ありがたいよ」と言いリハビリに励んでいた（この時の笑顔は忘れられない）。

快復できるものとの思いもあり、余り立ち入ってもとの遠慮もあったので、しばらく行く事をひかえることにして、六月の展示会の作品作りを始めていた。折に触れメール等で様子を聞いていたので作品展が終わり次第少しゆっくり見舞うつもりでいた。

そんな折、娘から「母に会いに来てほしい」のメールが入っていたのを不覚にも見落としてしまっていた。六日後妹の悲しい報せがあり、其のショックは大きかった。

すぐさま子供たちのもとへ弟も駆けつけた。妹は気持ちよさそうに眠っているかに見え今にも話しかけてくれるように見えた。

きっと楽しく嬉しい夢を見ながら旅立っていったのだろうかと、少しばかり救われたような気持ちになれた。子供たちが悲しみをこらえ気丈にふるまっていた、

「ながらえば

またこの頃や忍ばれむ

憂しとみし世ぞ

今は恋しき」

（新古今和歌集より）

いつの日か悲しみも懐かしく想える日が来ることを願いつつ・・・・。

総会の返信欄へ会員の皆様から寄せられた近況（敬称略・旧姓・出身区）

1　荒木廣之（下原）

東京都板橋区長野県人会員として地区にお世話になって居ります！亦、小企業乍ら、みすゞ興業（株）社員52名、第59期を迎え、目下東京都4区自治体関係の業務に従事です。

引き続き郷土の皆様のご協力の程をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

皆様の御健勝ご多幸を祈念申し上げます。

2　石巻哲夫（曲尾）

いつも申し訳ございません。

3　一之瀬和夫（大日向）

2017夏、根子岳四阿山行きでは雨霧のため根子岳で返しました。2018の歩き計画は三つあります。①峰の原−米子瀑布、②峰の原−根子岳−四阿山−牧場、③市民の森−烏帽子岳−本原、です。平地では脚を出せば前へ進めますが、坂では少し努力を要します。つぎの一年の健康増進法を探します。

4　井上かつよ（堀内・田中）

若葉のすがすがしい季節になりました。今年も皆々様にお会い出来る日を楽しみに出席させて頂きますので宜しくお願いします。

5　岩井泰子（荻原・本原）

役員の皆様いつも会のために多大な尽力をいただきましてありがとうございます。寒暖の差が激しい今年の気候ですが、すっかり新緑の美しい季節になりました。ふる里の皆様にお逢い出来ます事を楽しみに出席させて頂きます。

6　岩崎　弘（本原）

ご盛会をお祈りいたします。

7　岩崎みち子（正木・菅平）

今年も一年本当に早くて寒い寒いと言っていた冬もすぎ、桜花もアットいう間に終ってしまいました。一年間元気ですごせるよう頑張ってゆきたいと思います。お世話になります。

8　内海宏光（大庭）

長い冬が過ぎ、暖い季節となりました。野菜の種蒔の時季ですが、雨が降りません。農家はひと雨欲しいです。半月程も降りません。毎日待ちの日々です。私も年を取りましたが、健康に過しております。

9　上ノ山勝信（堀内・三島平）

元気ですが当日用事があり失礼いたします。遅くなりました申し訳ありません。

東京真田町の会

副会長　**深　町　共　榮**

（田中出身）

〒366-0052　埼玉県深谷市上柴町西 5-7-82

〒386-2203　長野県上田市真田町傍陽 825-7

☎ 090-7225-6491

10　大橋けさ子（山本・菅平）

役員の皆様いつもありがとう御座居ます。懐かしい方々との再会を楽しみにして居ります。

11　荻原啓治（四日市）

“健康第一”好きな音楽で仲間と交流すること、日課としています。

12　荻原淑子（穴沢）

会報を通して現在の真田町の様子を想像し、色々考えさせられております。

私信の宛先に小生と書く相手が一人居たのですが、その友が亡くなりました。青木村です。万葉集の防人歌にも残っているのに、私の住所録からは消えてしまいました。字名も書く必要が無くなりました。これは全国的現象ですが、地名には歴史があることを大切に考えたいものです。

13　海瀬弘司（曲尾）

最近はロコモに悩まされながらも、それが自分の心と身体の良薬と考えてサイクリングやプール通いを楽しみながら過ごしています。盛会をお祈りします。

14　加賀見昌子（山本・横沢）

お世話になります。ご盛会をお祈り致します。

15　川上年美（宮崎・菅平）

今年も又皆様にお逢いできていろいろお話ができるのを楽しみにしております。

昨年は旅行が台風でだめになり残念でした。今年こそ台風のないよう祈っております。

16　久保新一（横沢）

ご苦労様です。上り列車の先に未来がある時代が終って、下り列車の先に未来がある時代に変ろうとしています。2020年、一区切りつけたらどうでしょうか。

17　倉島峯子（鈴木・横尾）

遅くなり申しわけありません。

18　倉島義明（横沢）

別件とバッティングしてしまいました。残念ながら今回は欠席します。

ご盛会を願っています。

19　小林重利（入軽井沢）

坐骨神経痛に腰部脊椎管狭窄症が加わり痛みが強くなって歩行が辛くなりましたので、残念乍ら欠席させて頂きます。

20　小林孝雄（曲尾）

今年9月で93歳になります。幸い元気で過ごしております。

21　小林正子（堀内・下横道）

役員の皆様いつもお世話して頂きありがとうございます。親戚での集まりがあり欠席させて頂きます。皆様によろしくお伝え下さい。

22　坂口英一（真田）

毎日、元気に仕事をしております。

23　坂口典和（真田）

人生100才。ここまで来たらもう急ぐこともない。ゆっくりマイペースでもう一頑張り。

24　笹沢ケサム（久保・横沢）

役員の皆様方しらかば通信いつもありがとうございます。総会までの準備に大変ご苦労さまです。

私の住む千葉県八千代市では長野県人会が岩崎会長さんを中心に長く続いております。年に一度の親睦旅行が行われるまさにその日の総会であり出席できず残念です。県人会が長く続きますように。

25　佐藤昌江（柳沢・萩）

お世話になります。出席させて頂きます。皆様にお逢い出来ることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願い致します。

26　椎名巳津男（山口・横沢）

今年の陽気は寒くなったり暑くなったりで、花も例年より早く通り過ぎた感がしました。一年振りに皆様にお逢いできます事、楽しみです。

役員の皆様方の御苦労に対し感謝申しあげます。当日はよろしくお願い致します。

27　柴田小夜子（市村・菅平）

今年も皆様にお逢いできる事を楽しみにしております。若い方も参加して下さい。

28　清水清晴（中横道）

お世話様です。高年令のため遠出はできません。皆様方によろしくお伝えください。

広告1/4頁を昨年お願いしましたが、払込用紙に記入したから？でしょうか。

29　杉崎壽三男（菅平）

久々にお会いできる皆様方と「信州弁丸出し」でお話しできることを楽しみにしております。

30　杉村房枝（落合・萩）

いつもお世話様になりまして有りがとうございます。出席させて頂きたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

31　鈴木郁夫（横尾）

昨年は母校創立100周年となりオルゴールの曲に校歌を入れ、人形が「千曲」と書くオートマタ（カラクリ人形）を作り母校に寄贈する事ができました。

32　鈴木邦子（横尾）

年令相応の体の変調はありますが、それなりに楽しく過ごそうと心がけております。東京真田町の会でのさまざまな楽しい計画をお待ちしております。

33　鈴木民子（高寺・竹室）

いつもお世話になります。今年は孫が何か予定が入っているとかで「泊めてほしい」と言って居りますので、残念ですが出られなくなりました。

欠席させていただきます。

34　武田守央（真田）

人生は後半がおもしろいとかいっぱい楽しみも参加の楽しみです。

35　館野清實（堀内・田中）

今年が最後、今年が最後の思いでしたが、亦、元気で皆様とお会い出来ます。出席します、感謝です。

36 田中恒夫（横尾）

皆様ご苦労様です。

37 塚田加代子（宮崎・横尾）

93歳の母が昨年末に入院。ベッドでの生活となり家に帰れるだろうか?と祈りつつの4カ月間でした。リハビリを頑張り4月には家へ帰ることになりました。母のいる実家に帰れる幸せを感じております。

38 塚田 靖（菅平）

住所が変りました。

39 所 けさい（堀内・中横道）

いつもお世話になっております。前にお話しいたしました、源氏物語と、海外研修のことですが、源氏物語は今も続けておりますので心配ありませんが、海外研修は「明日をひらく婦人たち」として、カナダ、アメリカ、をホームステイをしながら、12日間の旅。余りにも分厚い報告書になっておりますので心配になります。何とかやってみようと思っております。

40 中沢欣勇（下横道）

相変らず毎日元気で暮して居ります。懐しき真田町と人々にお会い出来ることを楽しみです。役員の方々の日頃の御苦労に感謝申し上げます。

41 中島正江（関谷・戸沢）

私は一月の大雪の日、自転車でころび、左ひざ（お皿）を損傷しました。今は回復し仕事できております。若い時のようにうまく行きませんでした。自転車の下敷になり！ やっと脱出して家へ帰ったが、結果は骨折でした。

42 中村洋子（木下・田中）

いつもありがとうございます。楽しみにしております。

43 鳴沢 隆（萩）

毎週日曜日はボランティアの仕事がありますので失礼します。会の盛況を祈ります。

44 野村勝太郎（大日向）

他の周年行事と重なりこの総会を欠席します。申訳ありません。皆様に宜しくお伝え下さい。

45 花岡孝雄（横尾）

役員の皆様ご苦労様です。益々の盛会を祈ります。

46 半田喜章（中横道）

所用の為欠席します。ご盛会をお祈りします。

47 平田金子（橘詰・岡保）

3月10日の高尾山ハイキング楽しく参加させて頂きました。高尾山はなん度も行きましたが、四号路は初めてで良かったです。ありがとうございました。総会も皆様にお会い出来るのが楽しみです。よろしくお願い致しします。

48 深町共榮（山岸・田中）

この春は、腰痛と花粉症で桜を楽しむことが出来ずじまいでした。りんごの消毒も始まりましたが、昨年のような降雹被害がないことを祈るばかりです。

49 堀内 福（下横道）

二年ぶりの参加！皆さんにお会い出来るの楽しみにしています。元気です‼

50 堀内照美（上横道）

返送が大変遅くなり申し訳ございませんでした。総会・懇親会のご盛会を心よりお祝い申し上げます。当日は仕事の関連で福島へ行っております。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

51 堀内寿美（上横道）

いつもご連絡をありがとうございます。早いもので本会の会総会も31回となるのですね。すみませんが、都合がつかず欠席させて下さい。盛会であられますように。

52 堀内秀夫（下横道）

元気ですがスローペースです。“介護予防体操”で生活能力向上を目指しています。

53 堀内寅次（中横道）

いつもご連絡を頂きありがとうございます。間もなく87歳となりますが元気で居ります。脚が弱くなり歩行が困難な状況です。残念乍ら欠席とさせていただきます。

御盛会をお祈り申し上げます。皆様によろしくお伝えください。年会費を支払います。

54 堀内敏文（下横道）

連絡ありがとう御座います。旅行を計画しているため、欠席致します。盛会になることをお祈り申し上げます。

55 堀内 勝（下横道）

会員で町内に住まう皆さんには会報日本ダボス送らなくてもいいと思います。二通は無駄と思います。5月20日過ぎには白内障手術の為欠席します。皆様によろしく。

56 堀内 幸（下横道）

役員の皆様ご苦労をおかけしています。一人でも多くの方々の参加を願っております。懇親会演歌は〈若葉のブルース〉で！

57 牧内泰男（萩）

皆さんに会えるのを楽しみにしていましたが、体調が良くなくって、すみません。

58 丸山廣義（曲尾）

所用のため欠席させていただきます。御盛会をお祈りいたします。

59 三井芳郎（大庭）

自然にかこまれた傍陽で楽しく暮らしております。

60 宮島 光男（横尾）

皆様にお会いできるのを楽しみにしています。「東京上田会」とかけもちで活動しています。真田町の会と上田会は春秋の二回、合同ゴルフコンペを開催して交流しています。小生も幹事役をしており、若い参加者を募っています。ゴル

フ愛好者の方ご連絡を下さい。03(6662)5299 東京上田会事務局 FAX

61 武捨衛人（中組）

花粉症で体調不良です。ボケ防止の為に私製の数独用作業テーブルの改良に余念がありません。そのうちに解けない難問が全くないソフトを完成したいと思います。31回総会の盛会を祈念いたします。元気な皆さんとお会いしたいのですが・・。

62 八木五郎（中横道）

現役続行中。シフトで20日余り働く。現歳まで体調は交通事故(助手席)で右肩、腕の動き悪い以外これとなかったけれど4月に入って右下腹痛み血液CT検査で腎臓結石の診断あり。今は威圧感あるも痛みなし。でもいつか?不安あるも、5/19～23日上高地より横尾涸沢北穂高岳(三泊山小屋)行。山に登り隊17年、まだ登る気力ある事の幸せ。山トレッキング、ハマッてる理由:停年后物流の仕事、コンベアへ重いビールケース、茶飲みもの何十ケースの積み込み。コンベアに使われて腰痛めて車もダメ。整形外科でいわれて廃車に。歩きと自転車で復活した。

63 柳沢郁政（戸沢）

箱根の金時山に昨年秋に山仲間と登りました。今年4月に同じ山に小学5年生の孫と登りました。富士山がまじかに見えて、季節の違いを楽しんでいます。

65 柳橋米子（内川・下横道）

“ダボス”が届くのを毎回楽しみにしております。いくつ年を重ねても、故郷を想う気持ちは色褪せることはありません。

懐しい故郷の風景はいつも心の中にあります。いつも“ダボス”をありがとうございます。

66 山浦教代（山浦・下原）

いつもありがとうございます。毎日元気で過ごしております。皆様に宜しくお伝えくださるようお願いします。誠に残念でございますが当日は来客ありますので出席できません。皆々様のご健康と御多幸をお祈りいたします。

67 山本道子（成沢・大庭）

昨年、母は大腿骨の骨折をしまして、今はケアセンターの方で、元気でおります（お嬢様からの代筆によるお返事です）。

同級会などの開催情報

○ 長村中学校 昭和30年卒業（78、79歳）

(1) 2018年5月27日～28日
(2) 真田町角間温泉「岩屋館」
(3) 参加者22名（男性9名、女性13名）当日帰宅者4名

第一回目のAクラス・Bクラス2組による合同同級会は昭和58年でした。以来平成30年まで毎年行い36回目となりました。今回は「前信州大学校学長」であった小宮山敦さん（横沢出身）が平成28年「春の叙勲瑞宝重光章」を受章されましたので、お祝いを兼ね記念講演会を横沢公民館で開催いたしました。演題は「健康をめぐって」のお話で地元の皆様も大勢参加して下さりジョークを交えての大変良いお話をしてくださいました。

そのあと岩屋館にて同級会の宴会となり、温泉女将の手厚いおもてなしと、全員の近況をそれぞれ語る中、夫自慢をする人、病を克服された人　趣味に没頭している人詩吟を習い始め披露してくれる人ありでした。はつらつと人生を楽しく過ごしている仲間がいることを誇りに思えた。

其のあとの二次会がまた盛り上がり思い出話が尽きない、とても80歳を目前にした仲間とは思えないほど皆元気！！　何処からか聞こえた、「今回を最後にするかい」との声あり、すると一斉に「まだまだやるだに」「来年は80歳を記念して盛大にやるだわい」と言う事に成り、「皆大賛成！また来年も元気で会いましょうね」と別れを惜しんだ。（鈴木邦子記）

○ 昭和33年3月卒業 真田中学3年3組同級会

(1) 2018年7月8日～9日
(2) 戸倉上山田温泉ホテル圓山荘
(3) 参加者8名(女性4名、男性4名)

60年前を振り返ると、第2回卒業生は282名(第62回は78名)、私たちの組は47名で、今回の同級会に8名が参加した。少々寂しさを覚えたが、1年振りに級友に会うと、寂しさなど何処へやら・・。近況を交し宴席を囲み歓談、カラオケと、毎年決まりきった流れであるが、旧交を温め、再会を約束しホテルをあとにした。会えなかった級友の健康を願っています。（神田幸雄記）

◎ 会員皆様へのお願い

ふるさとに住まう懐かしき仲間と過ごしたひと時の話題や、ふるさとでの水浴び、親友とのたわいない話など、2千文字以内(写真含まず)でご寄稿ください。

【送り方法】 郵送あるいはFax、電子メールなど、いずれの方法でもよく、しらかば通信No.22に掲載の一之瀬和夫、あるいは本会会長金子誠住所宛にお送り下さい。

☆　☆

実相院にあらわれた山鳥（提供深町共榮理事、20140421）

平成29年度決算報告書

平成29年4月1日から平成30年3月31日

収入の部			支出の部		
科　目	予　算	決　算	科　目	予　算	決　算
通常年会費	240,000	213,500	総会親睦会費	540,000	420,758
総会親睦会費	430,000	375,000	会報発行費	420,000	390,810
上田市補助金	300,000	300,000	事業費	130,000	62,684
広　告	170,000	15,000	事務通信費	90,000	11,483
寄付金等	15,000	42,500	印刷費	45,000	12,950
利息等雑収入	30	1	会議費	110,000	105,605
			渋外費	80,000	41,119
			交通費	95,000	40,400
			雑費・手数料	75,000	10,457
			予備費	55,277	0
当期収入合計	1,155,030	1,081,001	当期支出合計	1,640,277	1,096,266
前年度繰越金	485,247	485,247	次期繰越額		469,982
合　計	1,640,277	1,566,248	合　計	1,640,277	1,566,248

上記のとおり収支決算報告いたします。平成30年3月31日
上記の報告書は適正かつ真実であるものと認めます。

会計　坂口典和　㊞
監事　深町共榮　㊞
監事　荻原啓治　㊞

平成30年度事業計画

①第31回総会および懇親会の開催
　平成30年5月20日（日）
②会報「日本ダボス」第31号の発行
③広報誌「しらかば通信」第23号の発行
④ホームページの運営
⑤会員旅行会・ゴルフ大会・マレットゴルフに代わる新しい行事の提案、また会員相互の親睦を図る行事の実施
⑥上田市との交流促進のため、ふるさと訪問、ふるさとの特産品の宅配協力、各種文化交流、およびスポーツ行事等の実施と参加
⑦そのほか

平成30年度収支予算

平成30年4月1日から平成31年3月31日

収入の部		支出の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
通常年会費	220,000	総会親睦会費	500,000
総会親睦会費	400,000	会報発行費	420,000
上田市補助金	300,000	事業費	120,000
広　告	160,000	事務通信費	90,000
寄付金等	15,000	印刷費	45,000
利息等雑収入	3	会議費	110,000
前年度繰越金	469,982	渋外費	70,000
		交通費	90,000
		雑費・手数料	70,000
		予備費	49,985
収入合計	1,564,985	支出合計	1,564,985

東京真田町の会役員名簿

平成30年12月1日現在

職名		氏名
会長		金子　誠
副会長		深町共榮
		柴田小夜子
理事	監事	荻原啓治
	事務局長	神田幸雄
	会計理事	坂口典和
	編集長	一之瀬和夫
顧問	小林孝雄	清水清晴
	三井芳郎	塩沢和政
	中島正江	山口元彦

～ 会 員 消 息 ～（平成 29 年 11 月～平成 30 年 10 月、敬称略）

〈住 所 変 更（敬称略）〉

館野　清實	〒115-0052	東京都北区赤羽北 3-26-1-A405	（田中）
塚田　　靖	〒171-0022	豊島区南池袋 1-11-19-2808	（菅平）
牧内　泰男	〒124-0004	葛飾区東堀切 1-8-4	（ 萩 ）

〈退　会（敬称略）〉

長い間、本会の運営にご協力下さりありがとうございました。くれぐれも健康にご留意ください。

飯嶋啓治　金山きみ　斎郷陽子　田原国栄　持田みさ子　柳澤俊美　小野沢和江　櫻井和子

〈逝　去〉 この欄は掲載しません。

次回総会の予告

２０１９年度の**第三十二回総会・懇親会は5月19日(日)**、私学会館アルカディア市ヶ谷で開催の予定です。大勢の会員の皆様にご出席いただけますよう、お待ち申し上げております。詳しくは、４月発行のしらかば通信 23 号でお知らせします。

年会費払込に際しては専用の払込票により郵便局でお払込下さい

当会の年会費は、平成27年度までは一千円、平成28年度からは一千五百円となりました。したがいまして、①過年度分を未納の方で本紙へ同封した郵便局払込用紙でお支払いされる場合は、年度と金額を必ずご記入下さるようお願いします。

また、②２０１９年度の年会費一千五百円を払込みされるときも、同年の春にお送りする「しらかば通信」に同封の払込用紙をご利用下さるようお願いします。①、および②いずれの場合も払込取扱票に「通常払込料金加入者負担」と印刷してありますので払込料金は不要でございます。

広告御礼

本誌第31号の発行にあたり広告をお願い致しましたところ、多くの皆様からご協力を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

新会員ご紹介のお願い

会員の皆様にはいつも会の運営にご協力頂き誠にありがとうございます。会員相互の出会いと親睦、そしてふるさと真田町との交流の親密化を目的に誕生した東京真田町の会（１９８８年９月設立）も、次年度で31年の歴史をもつことになります。これまで、先輩役員のご努力、会員の皆様のご協力、そして旧真田町ならびに上田市のご支援により、今日を迎えることができたこと、誠にご同慶のいたりでございます。

本会がさらに充実し、発展し、新しい何かを探し続けるためには、何にもまして会員数の増加が重要であります。皆様の友人、知人で本会に推薦できる方がおいでしたら、会長または役員までご一報いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

連絡先 金子 誠 〒３６４－００３５ 埼玉県北本市西高尾 4-156、Tel・Fax０４８－５９１－４７２８

編 集 後 記

はじめに、本誌にご寄稿いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

８年にわたって会長を務めた山口元彦様（第五代）は本年第三十一回総会の議事でその任を解かれ、金子誠様（第六代）がこれを承けました。今後、山口様には顧問としてご尽力頂けることになりました。

また、これまで監事であった深町共榮様が副会長を務めることになりました。ほか詳細は総会資料の役員異動をご覧下さい。

本号では次のふるさとニュースをお届けしています。

㈠ 自治センター長山宮正久様はその執筆の任を地域振興課春原恵美子様に預けられましたので、同女史からふるさとの近況を寄せていただきました。

㈡ 本会がお世話になった伊藤岳彦様は菅平アリーナへ異動されましたので、その施設を同氏に紹介いただきました。本会に対するこれまでの同氏の御協力に厚く御礼を申し上げます。

㈢ 自然農法に取組んでいる横沢にお住いの鈴木ご夫妻を紹介しました。

真田氏と縁のある秋田県由利本荘市は佐々木裕三様から、信繁公の五女「御田の方」の波乱に満ちた一生についてご寄稿いただきました。

長村、傍陽村、および本原村の三カ村が合併し（1958年10月1日）、真田町の歴史が創られてから60年が経ちました。

ふるさと訪問：松本城、鹿鳴荘で懇親会、三人娘踊披露、上田城跡、別所温泉、さなだでは温かい歓迎を受けました。

祝　東京真田町の会　－会報31号－

夏の日、壇 11 の手入れに勤しむサルビア婦人 (横尾より戸沢方面を望む、2018 年 8 月 15 日)

〒386-8668 長野県上田市大手2丁目7番10号 TEL0268-25-7800 FAX0268-25-7820

JA 信州うえだ
女性部真田支会

〒386-2201
長野県上田市真田町長 3893-1
TEL0268-72-2300
FAX0268-72-4032

現代舞踊内海流
舞 踊 教 室

東京真田町の会顧問
中 島 正 江
（内海鉄改望）

〒157-0067東京都世田谷区喜多見3-22-18-103
☎ 03-6411-0703

日 本 ダ ボ ス　　平成 30 年 12 月 22 日発行
発 行 者　東京真田町の会　会長　金子　誠
発行者住所　〒 364-0035　埼玉県北本市西高尾 4-156,　Tel & Fax 048-591-4728
編　　集　一之瀬和夫（編集長）、深町共榮
印　　刷　上田市住吉：精巧堂　㈱アオヤギ印刷